

アンケート調査結果について

①市民	2
②まちづくり協議会等	31
③高校生	43

①市民アンケート調査

調査概要

（１）調査目的

壱岐市民の通院や買物などの実施状況、公共交通機関の利用状況、改善ニーズ等を把握するために実施した。

（２）調査対象

壱岐市在住の 2000 世帯（調査票を各世帯 2 部配布し、18 歳以上の家族にも回答を依頼）

（３）調査時期

令和 7 年 10 月

（４）調査方法

郵送による配布、郵送・Web による回収

（５）回収数

有効回答数 1,697 票 （世帯数ベース） 1,082 （54.1%）

(6)調査項目(単一回答:SA、複数回答 MA)

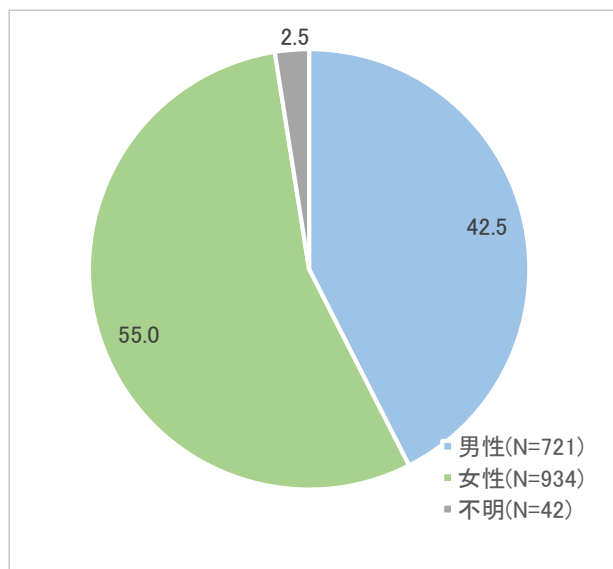
設問		回答形式
問 1	性別・年代	SA
問 2	住まい	SA
問 3	ア) 職業・現在の状態	SA
	イ) 通勤・通学先	SA
	ウ) 通勤・通学の移動手段	SA
問 4	ア) 自動車等の免許の有無	SA
	イ) 免許返納の検討状況	SA
問 5	所有の乗り物・専用に利用できる乗り物	SA
問 6	1) よく利用する通院先	MA
	2) よく利用する買物先	MA
	3) よく利用するその他（公共施設、金融機関、趣味・レジャーなど）	MA
問 7	最寄りのバス停までの所要時間	FA
問 8	バス停までの移動手段	SA
問 9	路線バスの利用頻度	SA
問 1 0	路線バスの利用目的	SA
問 1 1	路線バス利用の時間帯	SA
問 1 2	路線バス利用の利便性	SA
問 1 3	路線バスに改善してもらいたい点	SA
問 1 4	改善した場合の利用頻度の変化	SA
問 1 5	公共交通機関維持に対する考え方	SA
問 1 6	新交通システムについての考え方	SA
問 1 7	学生の状況	SA
問 1 8	通学の移動手段	SA
問 1 9	ア) 通学において公共交通手段を利用しない理由	SA
	イ) 将来的な公共交通機関利用の可能性	SA

1. ご自身についてお聞きします。

問1：性別・年代をお答えください。（性別は1つに○。年代は記入）

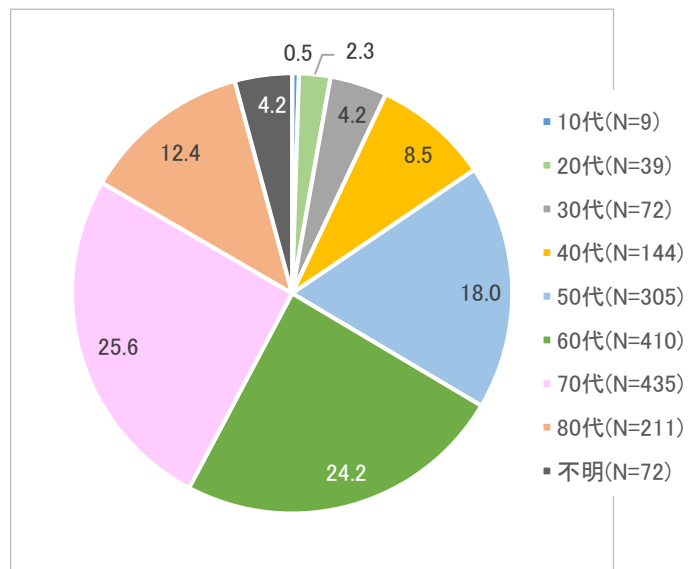
①性別

回答者の性別は、「男性」が42.5%、「女性」が55.0%と女性がやや多かった。



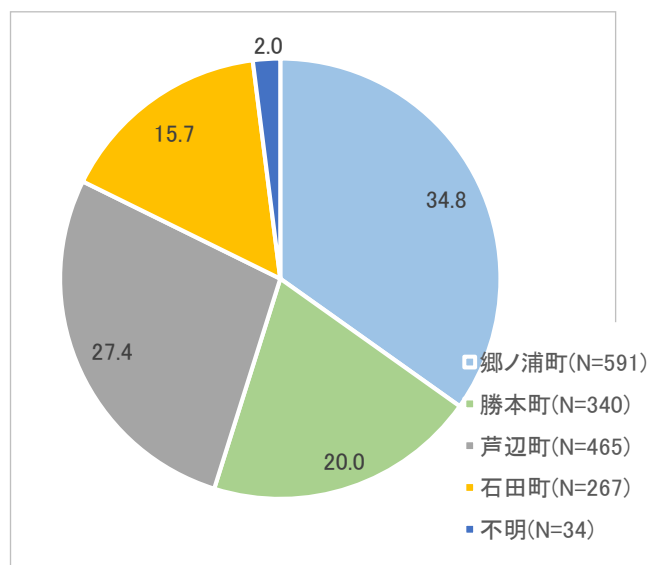
②年齢

回答者の年齢は、「70代」が25.6%で最も多く、「60代(24.2%)」、「50代(18.0%)」と続く。



問2：お住まいはどちらですか。（町名を1つ選択、字名は記入）

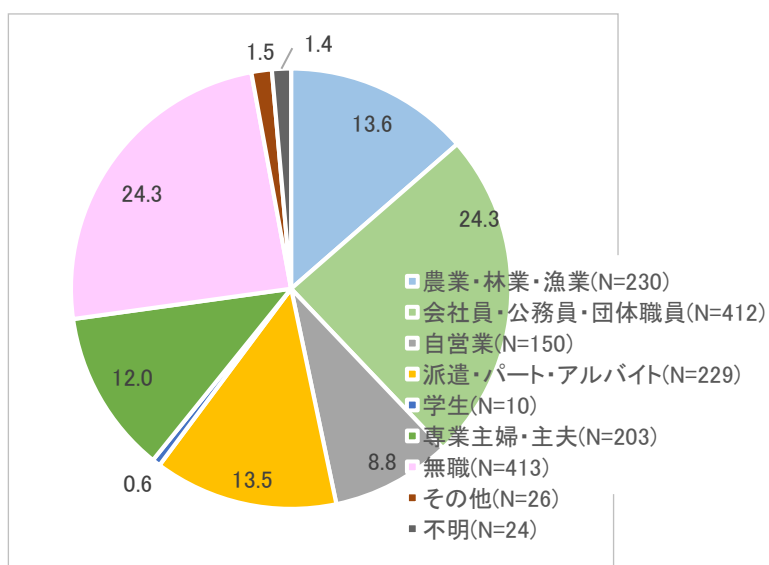
住まいは、ほぼ人口比と同様で、「郷ノ浦町」、「芦辺町」、「勝本町」、「石田町」の順となった。



問3：職業・現在の状態はどれにあたりますか。（1つに○）

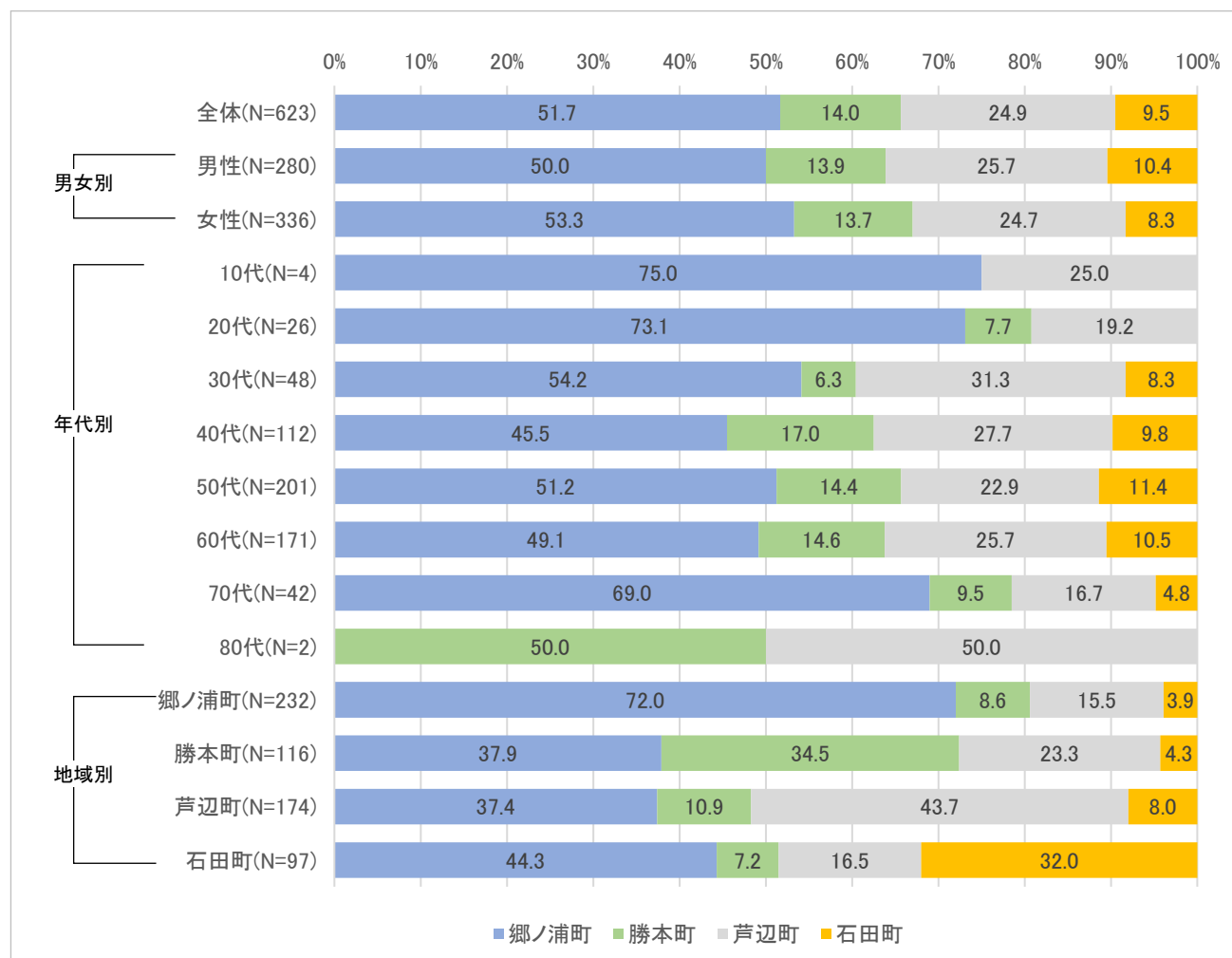
ア) 職業・状態 （1つに○）

職業・現在の状態は「無職」が27.0%で最も多く、「会社員・公務員・団体職員」が25.2%で続いている。



イ) 通勤・通学先（該当する方のみお答えください） （1つに○）

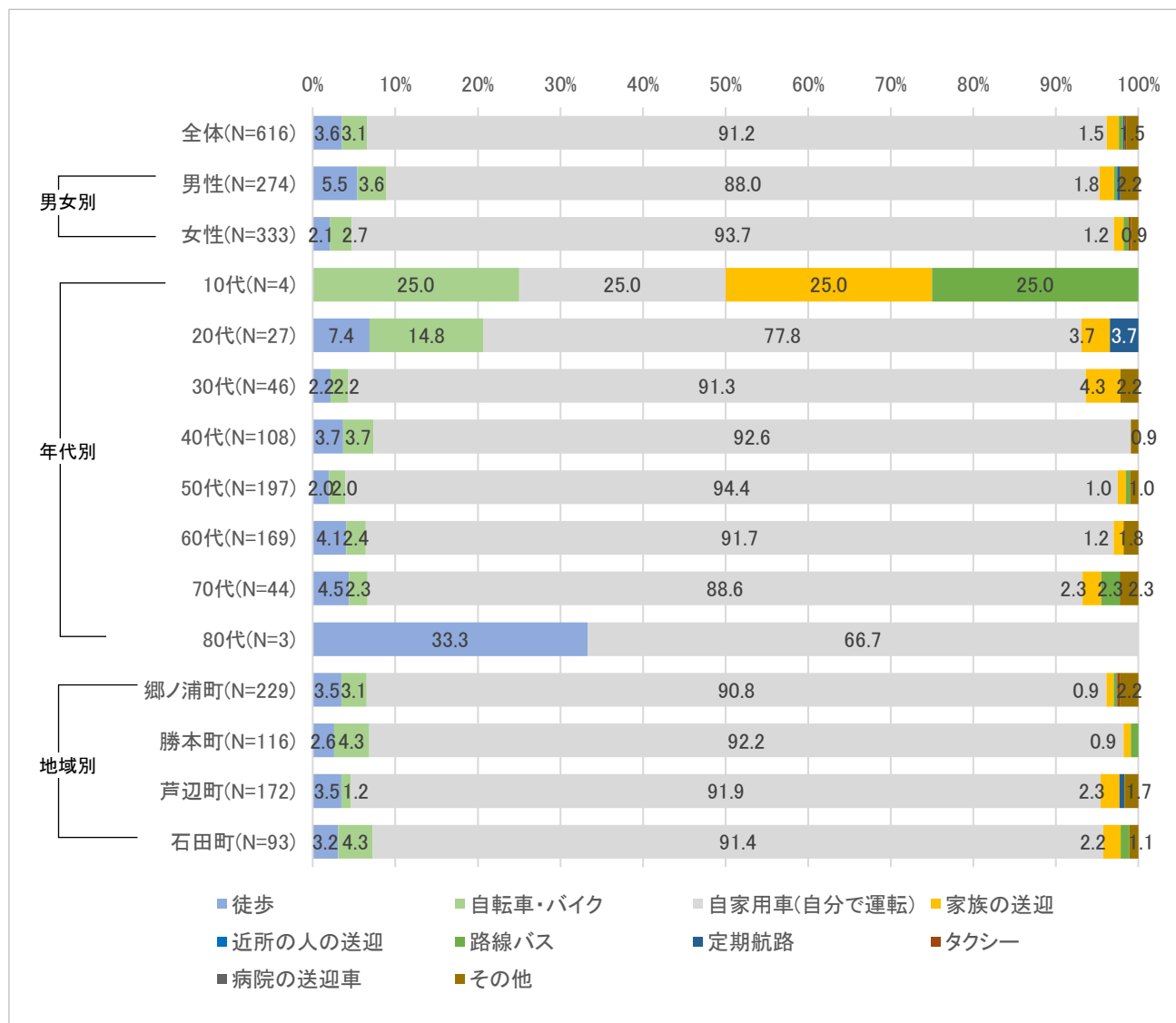
通勤・通学先は、全体では「郷ノ浦町」が 51.7%で最も多く、「芦辺町」が 24.9%が続いている。
「郷ノ浦町」への通勤通学は 20 代、70 代で特に高くなっている。



※10 代、80 代は 10 サンプル未満のため参考掲載

ウ) 通勤・通学の移動手段 （1つに○。乗り継ぐ場合は2つまで○）

通勤・通学の移動手段は、「自家用車（自分で運転）」が 91.2%で最も多く、「路線バス」は 0.5%となった。

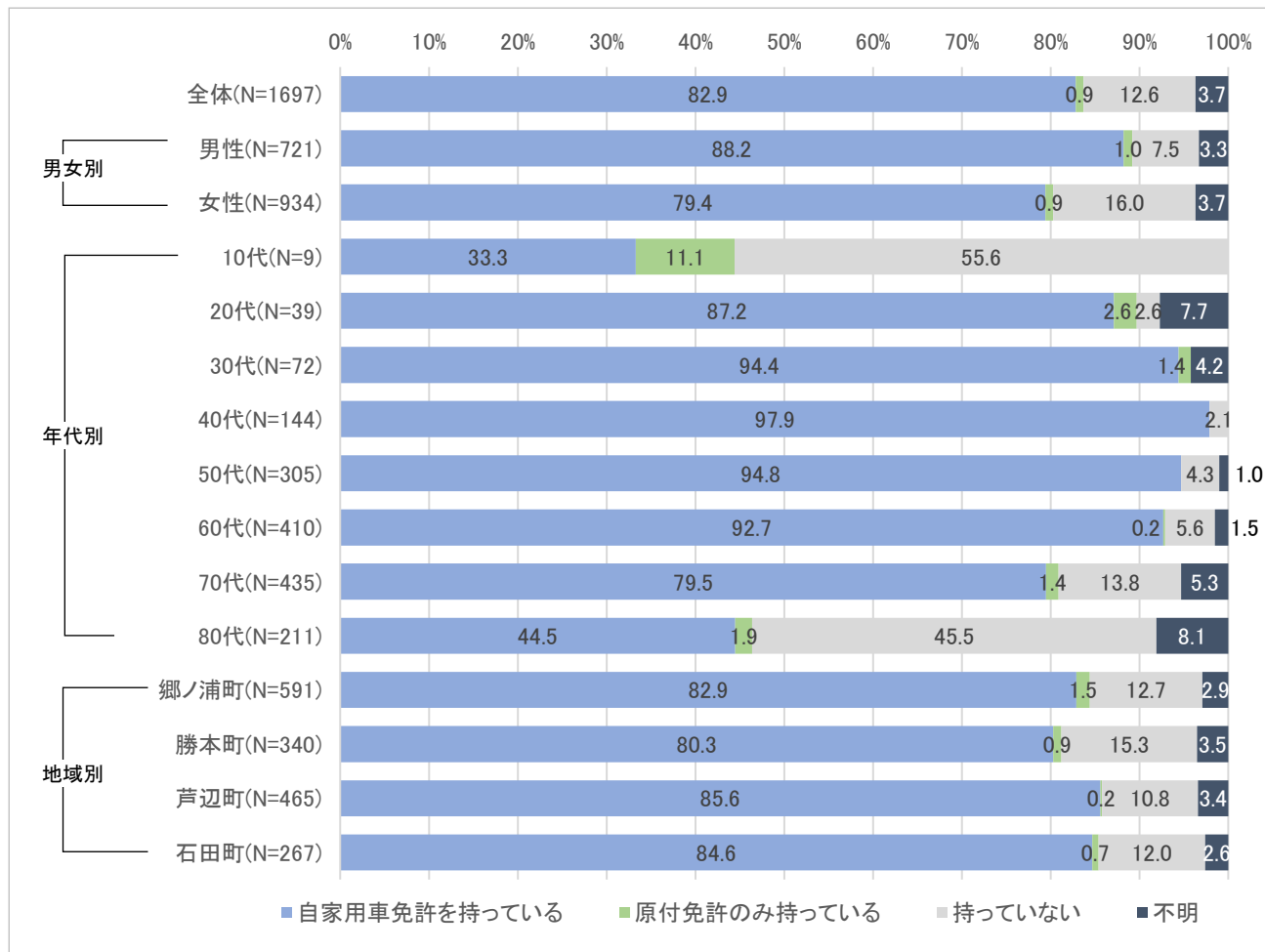


※10代、80代は10サンプル未満のため参考掲

問4：あなたは自動車等の免許をお持ちですか。

ア) 自動車等の免許の有無（1つに○）

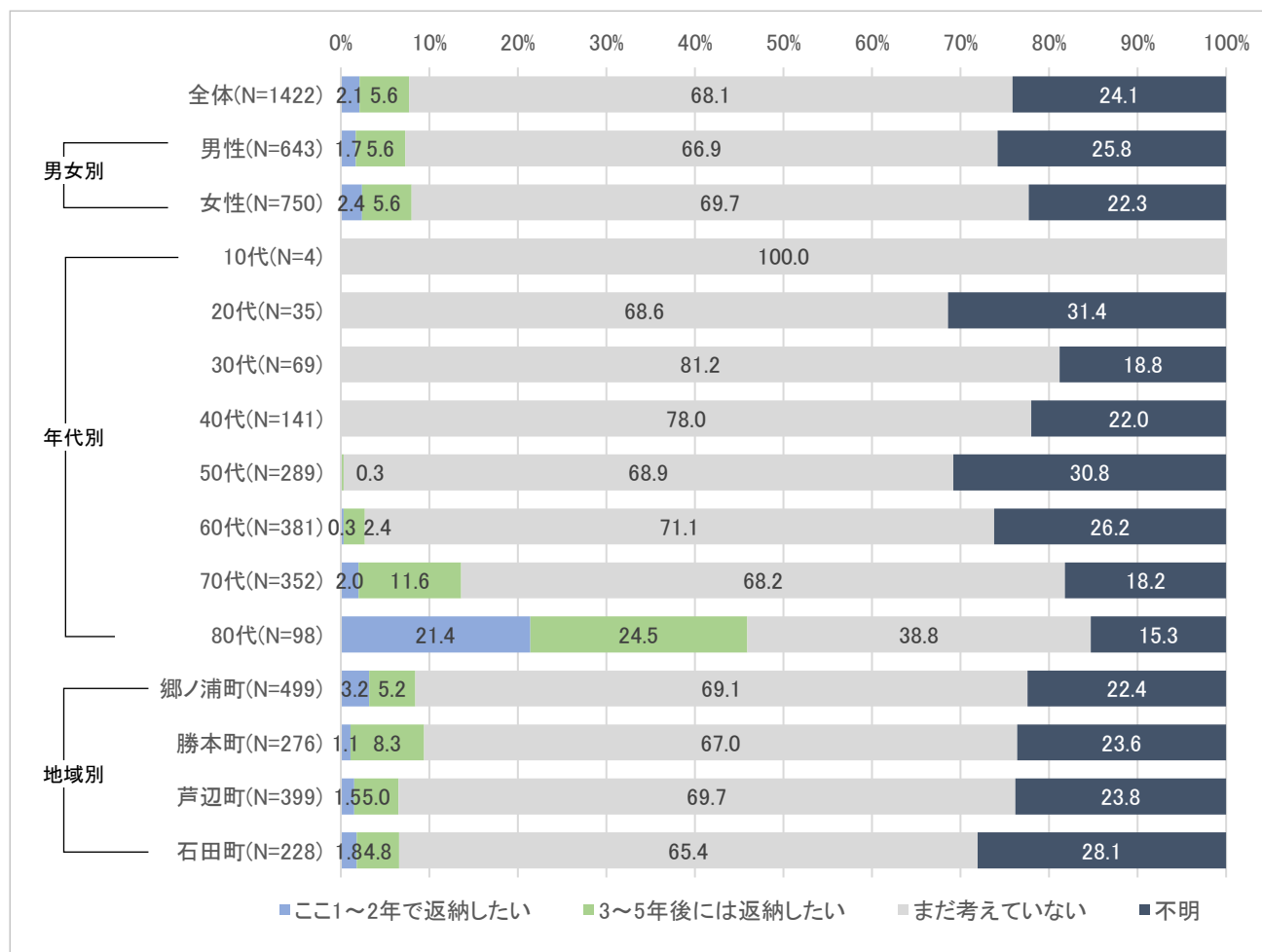
所有している乗り物は、「自家用車」が全体、男女とも最も多く、20代～60代では約9割となっている。一方、80代では「持っていない」が45.5%で最も多く移動手段が限定的である傾向が窺える。地域別では大きな差はみられない。



※10代は10サンプル未満のため参考掲載

イ) 免許をお持ちの方にお聞きします。免許返納は考えですか。(1つに○)

免許返納については、「まだ考えていない」と回答した人が最も多く、全体の 68.1%を占めた。年代別にみると、70 代では約 1 割が、80 代では約半数が免許返納を検討している。一方で、80 代でも 4 割は「まだ考えていない」と回答しており、高齢になっても免許を保持し続ける意向が一定数見られる。



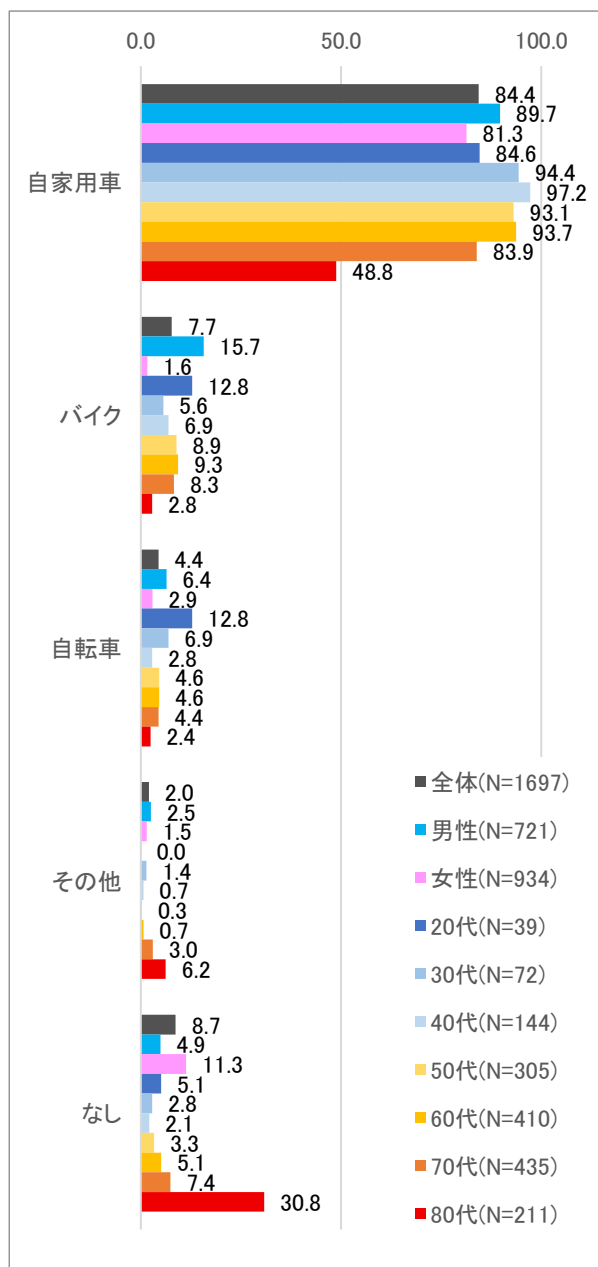
※10代は10サンプル未満のため参考掲載

問5：あなたが所有されている乗り物、または専用で使える乗り物はどれですか。

(該当するもの全てに○)

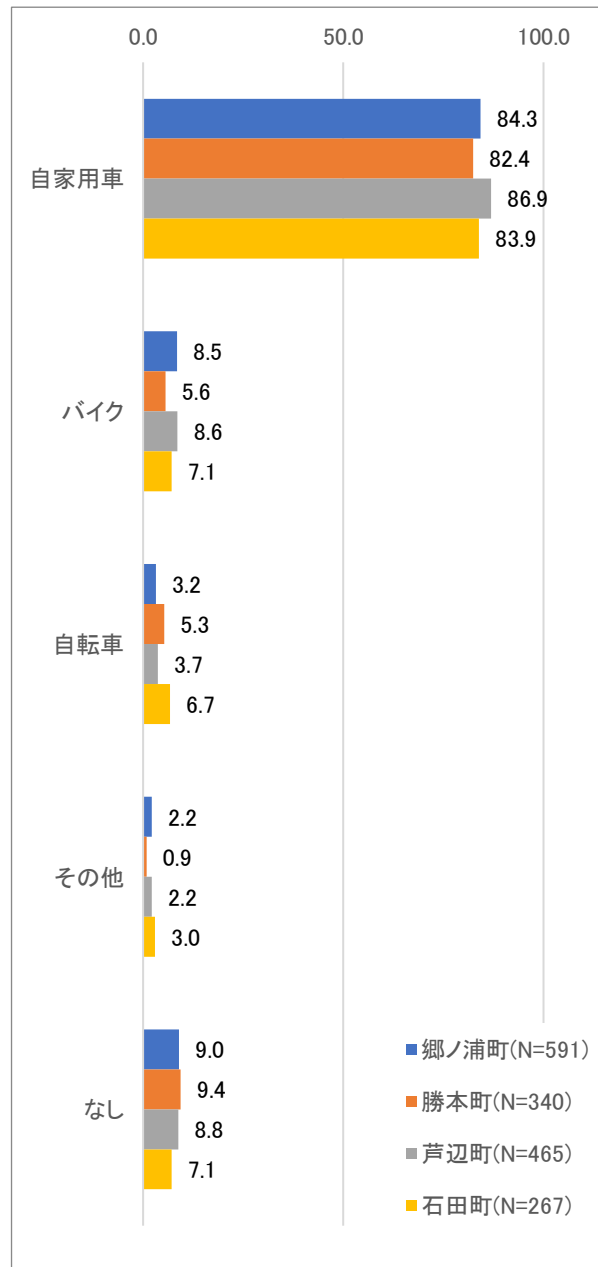
所有している乗り物は、「自家用車」が全体、男女とも最も多く、30代～60代では9割を超えている。80代以上では「自家用車」に次いで「なし(30.8%)」も多く移動手段が限定的である傾向が窺える。地域別では大きな差はみられない。

＜全体・性別・年代別＞



＜地域別＞

(%)



※10代は10サンプル未満のため非掲載

2. 通院・買い物場所についてお尋ねします。

問6：よく利用する通院や買い物先をお答えください。（該当するもの全てに○）

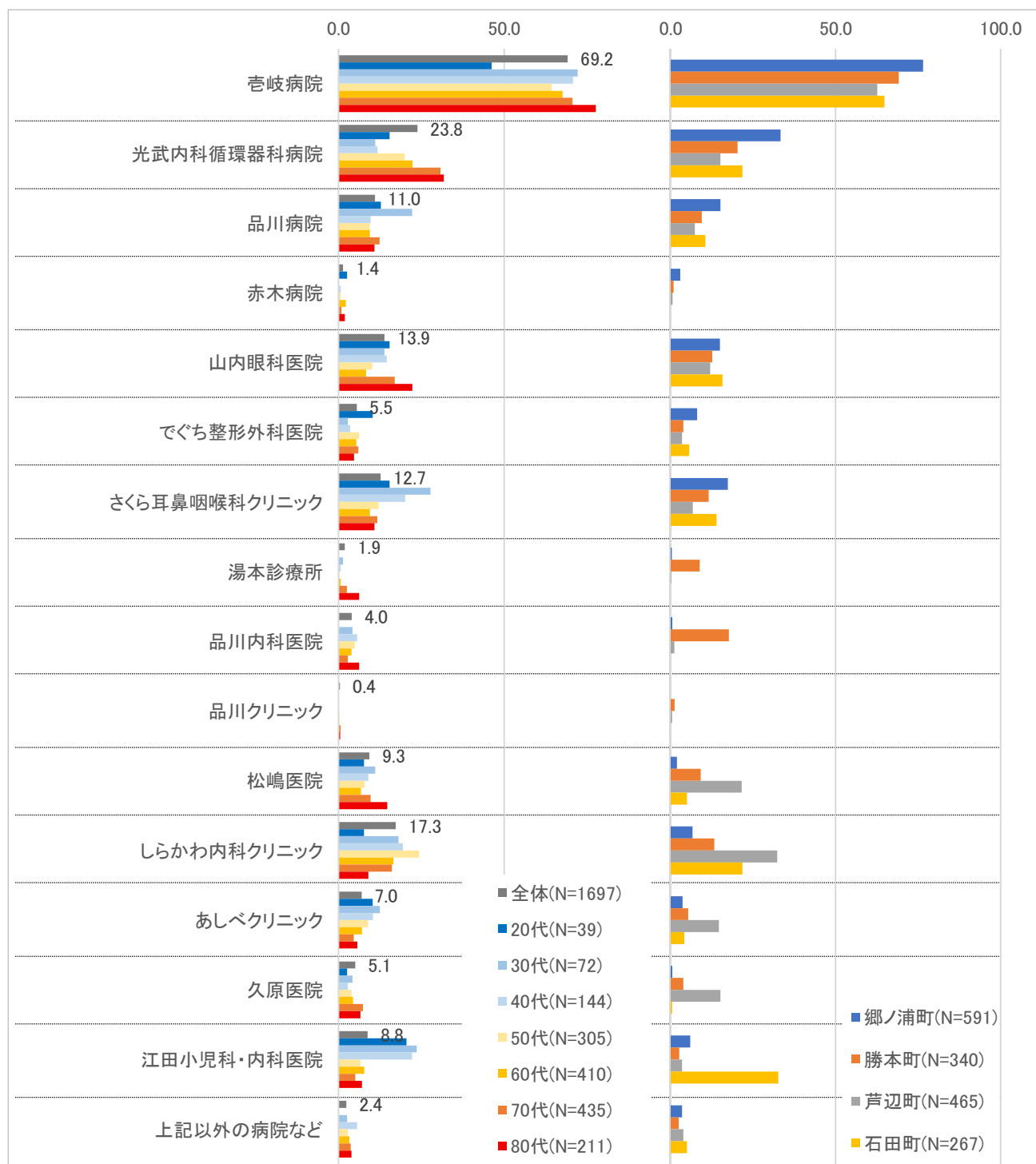
1）よく利用する通院先

利用頻度が高い病院は、「壱岐病院」が年齢別、地域別の全てで最も多くなっており、市内の基幹病院となっている状況が窺える。ただし、高齢者ほど循環器系病院など専門病院への通院割合も高く、壱岐病院のウェイトが低くなる傾向がみられた。

<年代別>

<地域別>

(%)



※10代は10サンプル未満のため非掲載

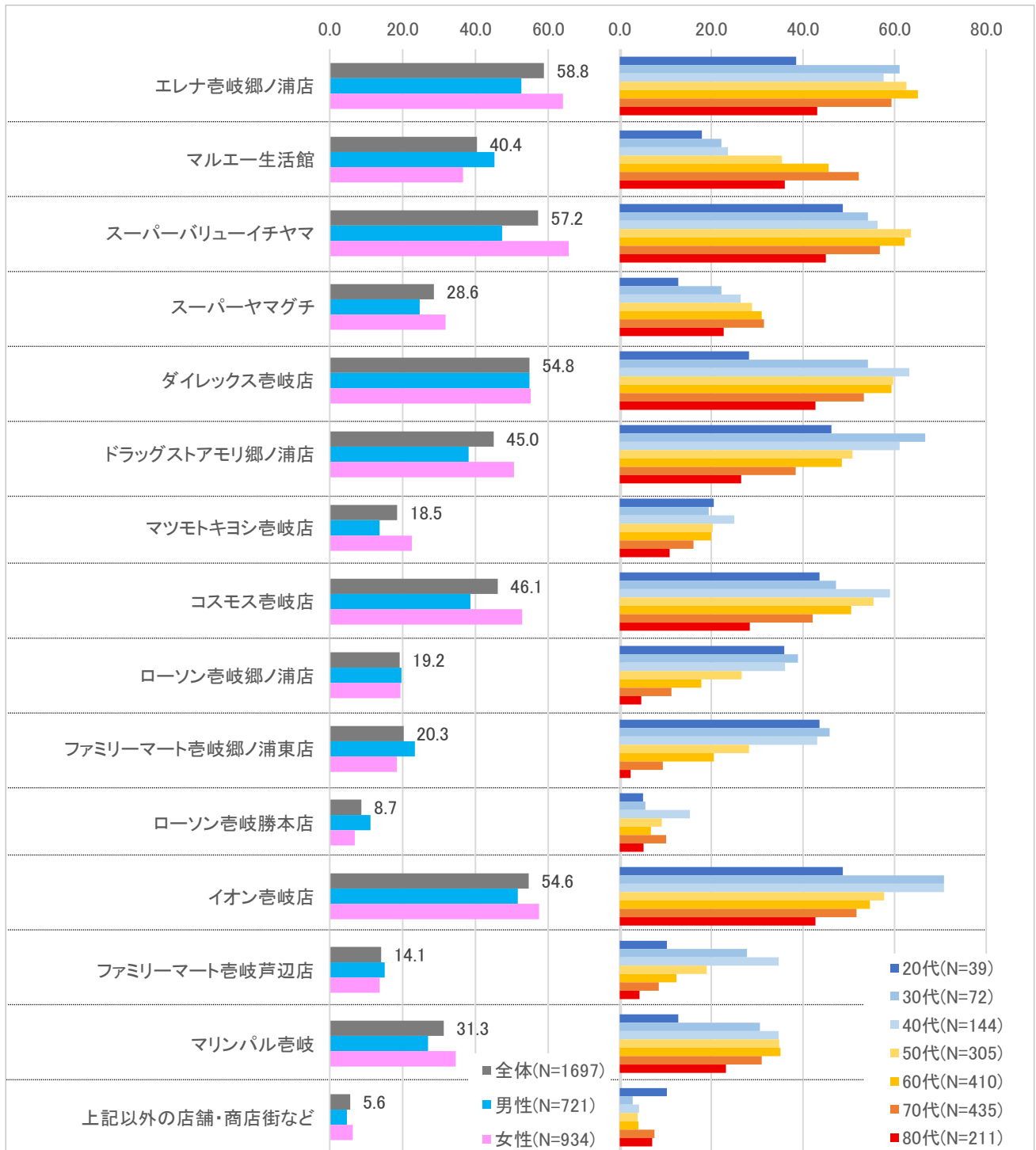
2) よく利用する買物先

よく利用する買物先は、「イオン壱岐店」「スーパーバリューイチヤマ」「ダイレックス壱岐」「エレナ壱岐郷ノ浦店」などが50%を超える高い割合となっている。年代別では、「ファミリーマート郷ノ浦店」「ローソン壱岐郷ノ浦店」は40代以下の人気が高く、「スーパーバリューイチヤマ」や「マルエー生活館」は60代～70代の人気が高い。また、「イオン壱岐店」「ドラッグストアモリ郷ノ浦店」はファミリー世代である30代～40代の人気が高い。

<全体・男女別>

<年代別>

(%)

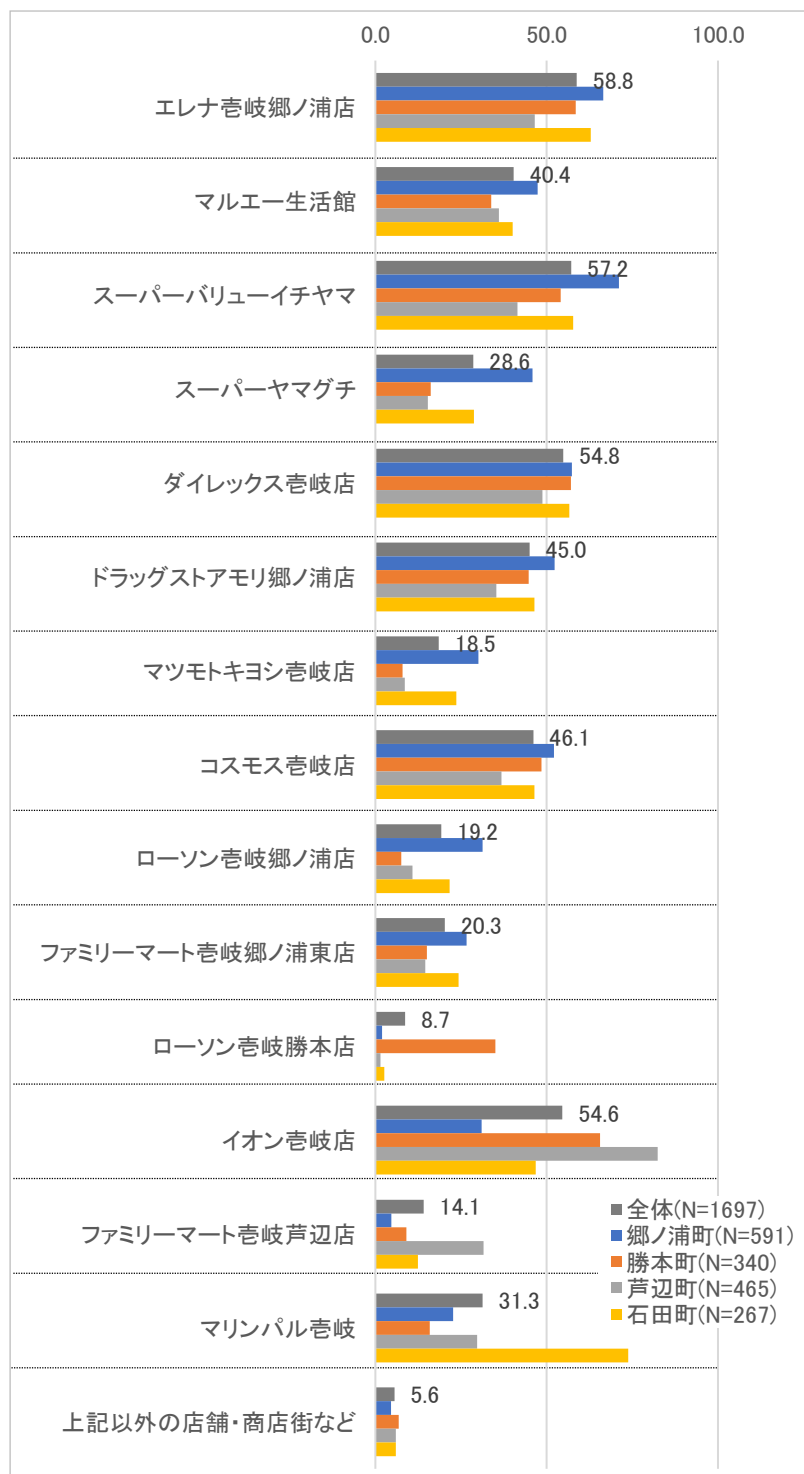


※10代は10サンプル未満のため非掲載

地域別にみると、芦辺町では「イオン壱岐店」、石田町では「マリンパル壱岐」を利用する割合が最も高く、それぞれの地域の主要な買物拠点となっている。一方で、勝本町は町内に主な買物先がなく、「イオン壱岐店」「エレナ郷ノ浦店」「ダイレックス壱岐店」などを利用する割合が高くなっている。

<地域別>

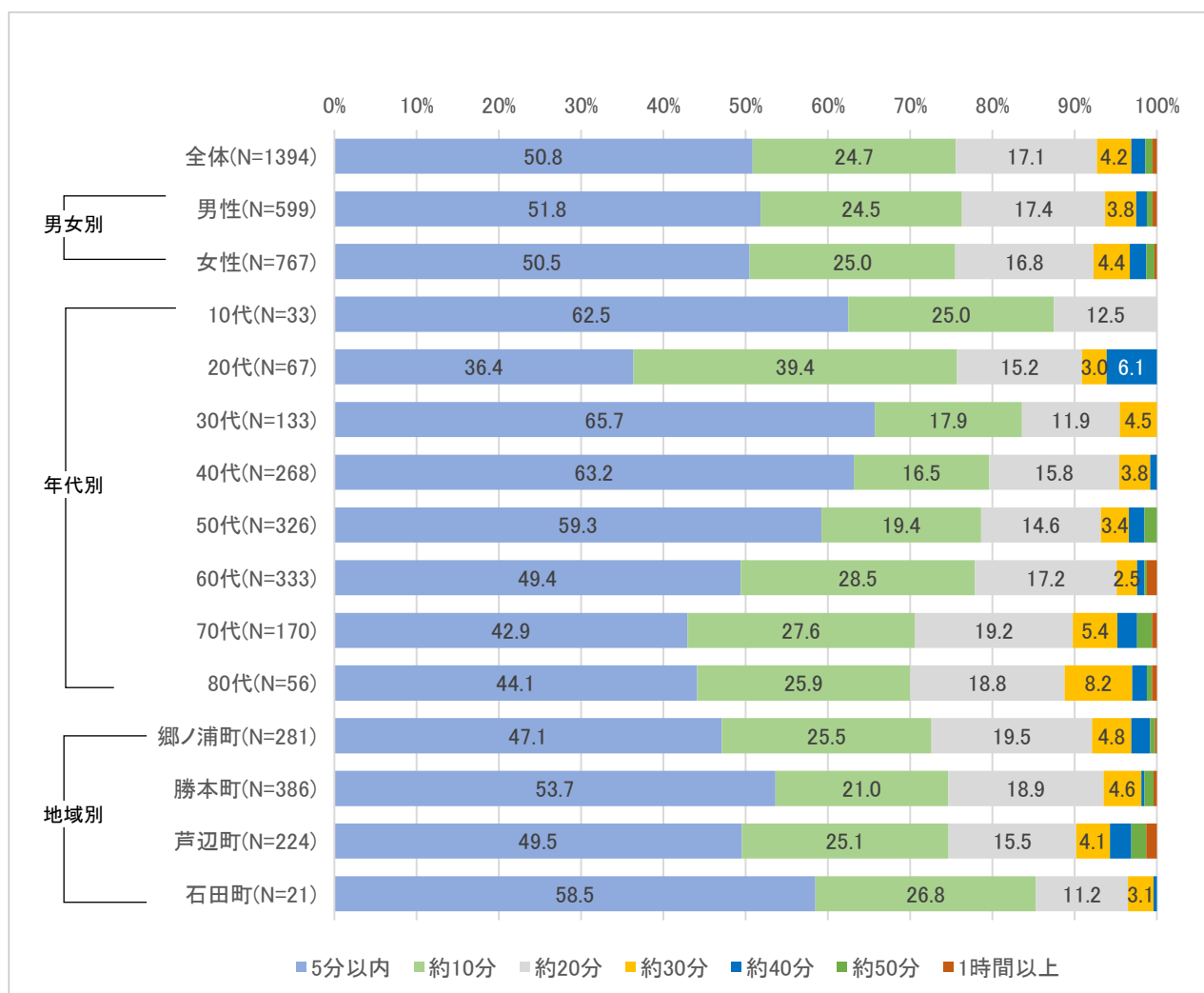
(%)



3. 路線バス（※乗合タクシー含む）の利用についてお尋ねします。

問7：最寄りのバス停までの所要時間をお答えください。（記入式）

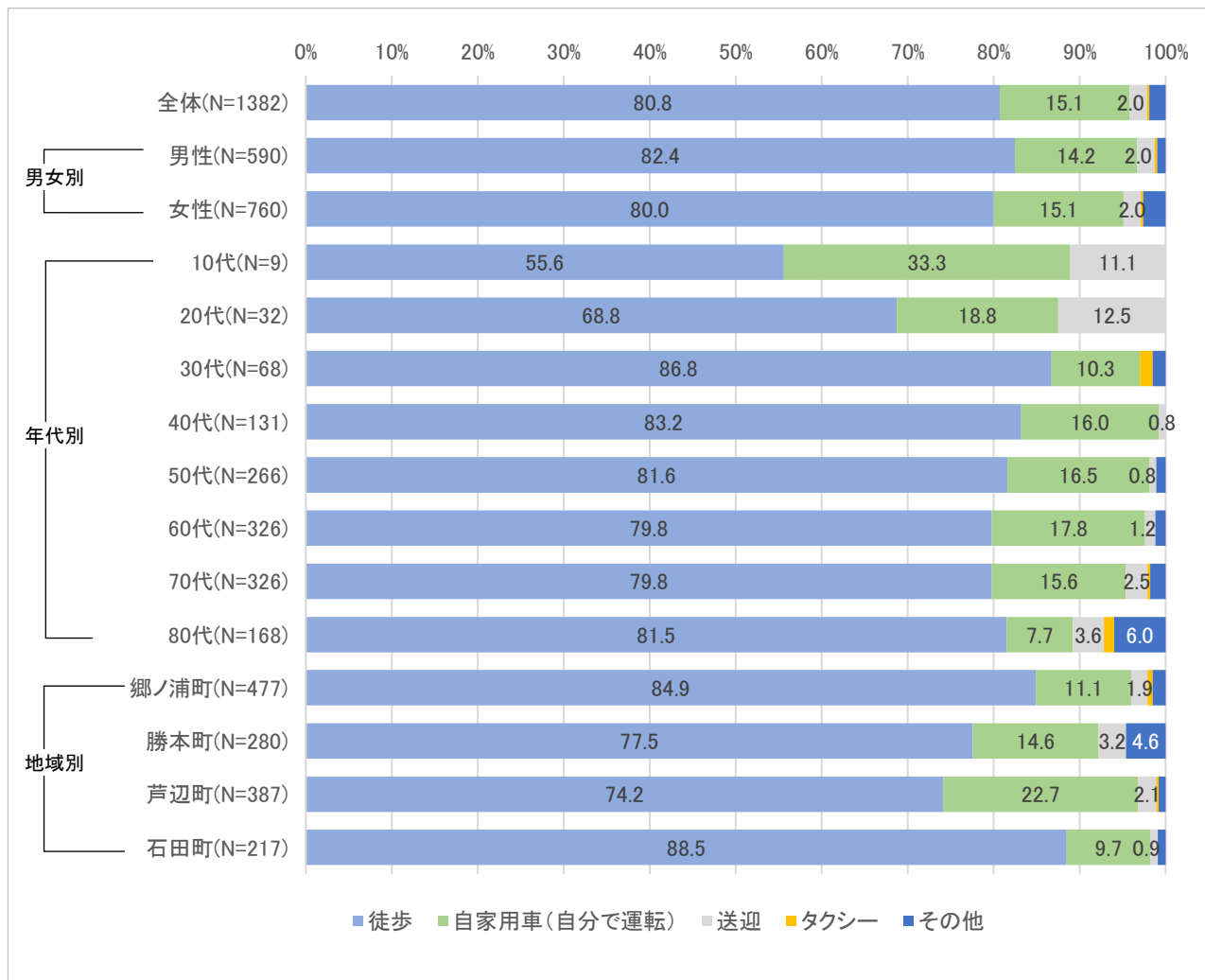
最寄りのバス停を尋ねたところ、全体では5分以内が最も高く50.8%であった。地域別でみると、全ての地域で5分以内が最も高い割合となったが、最高値の石田町(58.5%)と、最低値の郷ノ浦町(47.1%)でその差が10ポイント以上と大きく、バス停からの距離にも地域差が窺える結果となった。



※10代は10サンプル未満のため参考掲載

問 8：バス停まで行く場合の移動手段をお答えください。（1つに○）

バス停までの移動手段の 80.8%は「徒歩」で最も多い。「自家用車」も 15%ほどあるが、80 代となると、「送迎」や「その他」での移動が多くなる。地域別でみると芦辺町では 22.7%が「自家用車」と他地域よりも大きい特徴がみられる。



※10代は10サンプル未満のため参考掲載

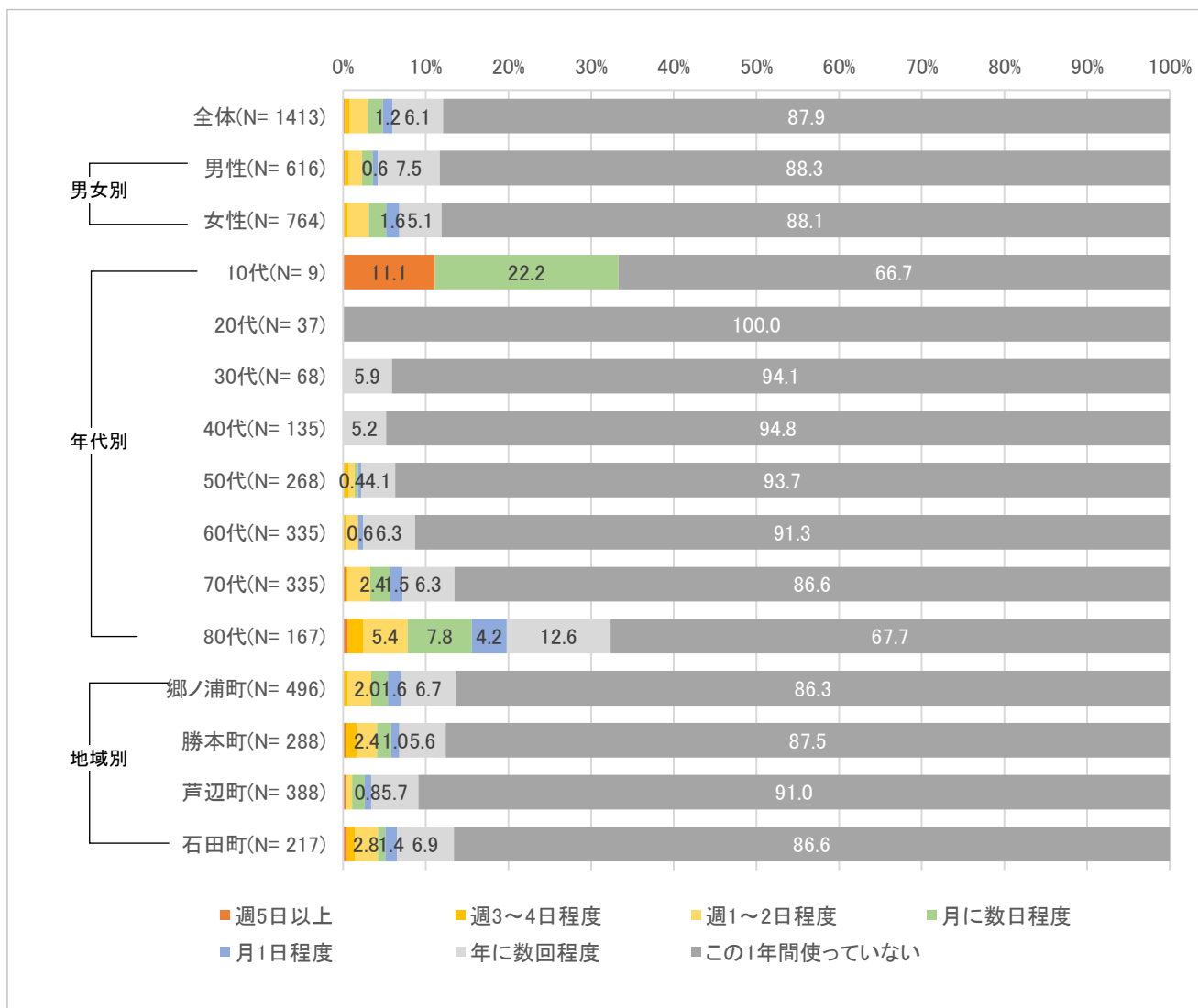
その他（意見数）

- ・セニアカー（5）
- ・押し車（2）
- ・電動カー（1）
- ・バイク（1）

問9：現在のバスの利用頻度をお答えください。（1つに○）

路線バスの利用頻度を尋ねたところ、「この1年間使っていない」が全体の87.9%と多くなっている。特に20代から60代までの車世代に至っては未利用率が90%以上と高くバス離れが進んでいる状況が窺える。

路線バスの利用頻度が最も高いのは80代、70代であり高齢者中心の市場が形成されている結果が窺える。地域別でみると芦辺町の未利用率が最も低い。

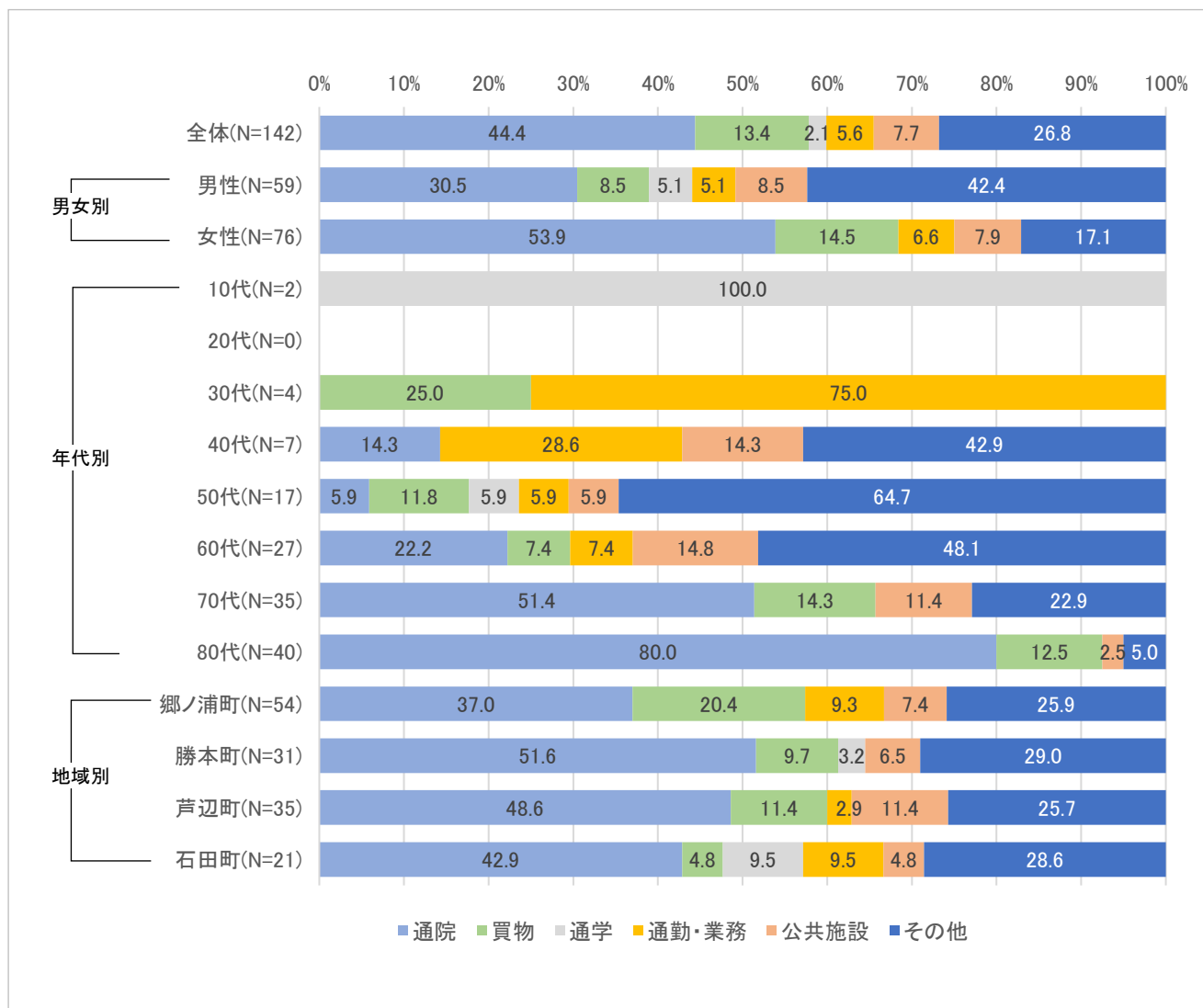


※10代は10サンプル未満のため参考掲載

※問10～問12は、問9で①～⑥に○をつけた方のみお答えください。

問10：路線バスを利用する主な利用目的をお答えください。（1つに○）

路線バスの利用目的は「通院」が最も多く「その他」「買物」が続いている。その他の理由としては、飛行機や船に乗る際に利用するという声が多数見られた。通院と買物で全体の約6割を占めており、特に高齢層ではその傾向が強まり80歳代以上では9割まで高まる。



※10～40代は10サンプル未満のため参考掲載

その他（意見数）

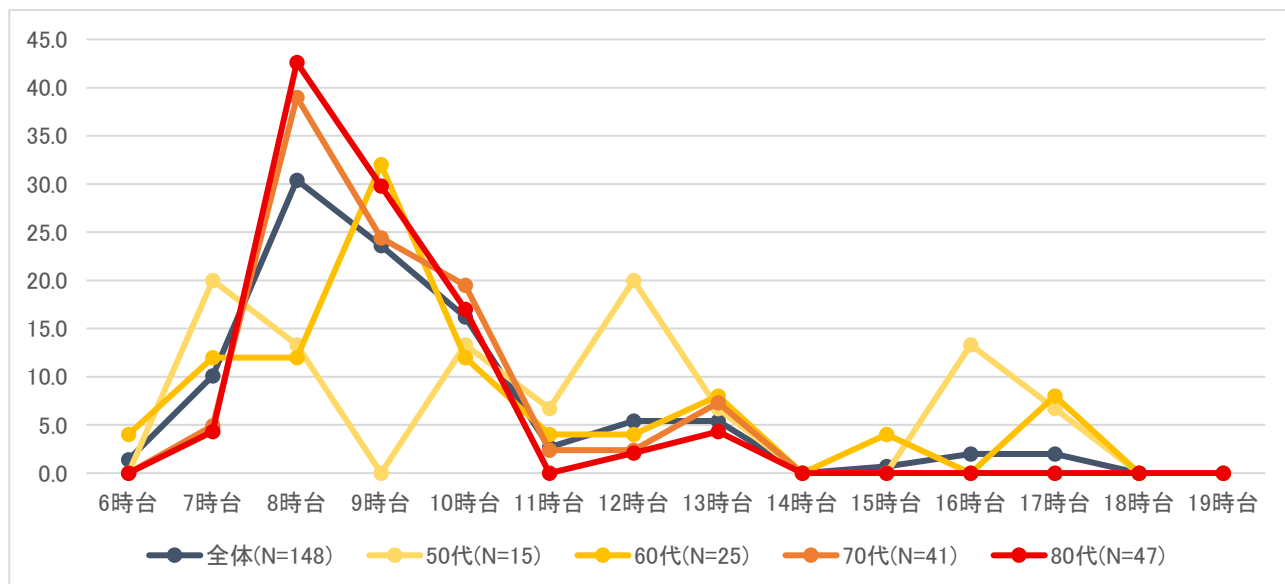
- ・ 港利用（11）
- ・ 空港利用（5）
- ・ 旅行（4）
- ・ 宴会等車を利用できない用事（3）
- ・ 出張（2）

問 1 1：主に利用するダイヤの時間帯をお答えください。

1. 行き

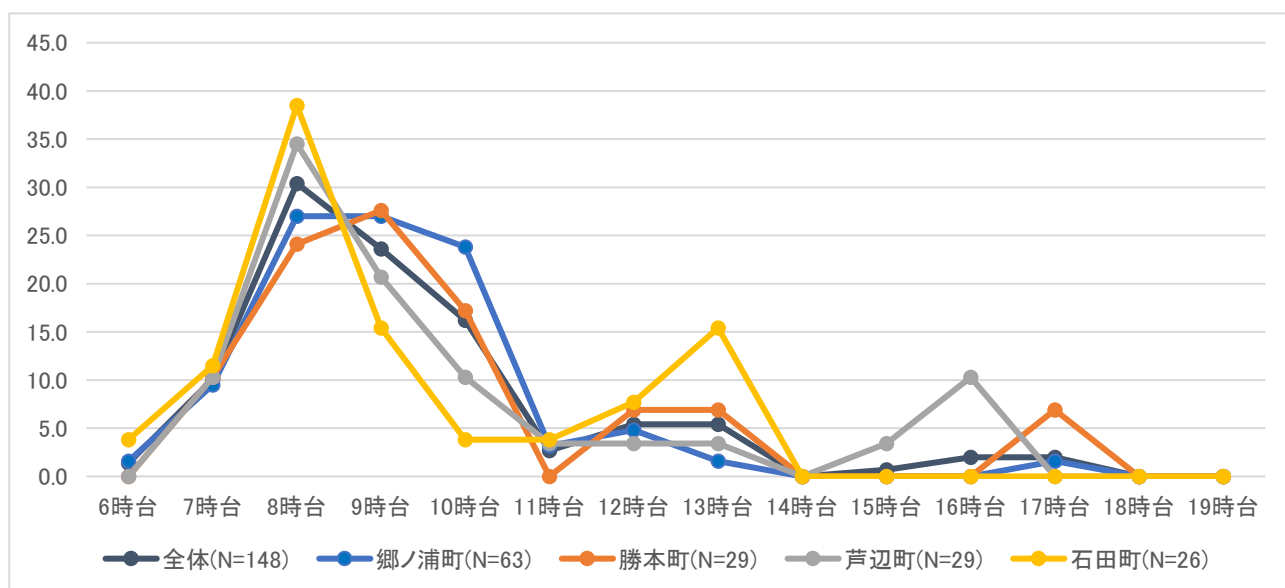
路線バス往路の利用時間は8時台が最も多い。これは、高齢層が通院に併せた行動によるものと考えられる。地域別では傾向の違いは少なく、いずれも8時台が多い。

＜年代別＞（％）



※10～40代はサンプル数が10未満のため非掲載

＜地域別＞（％）

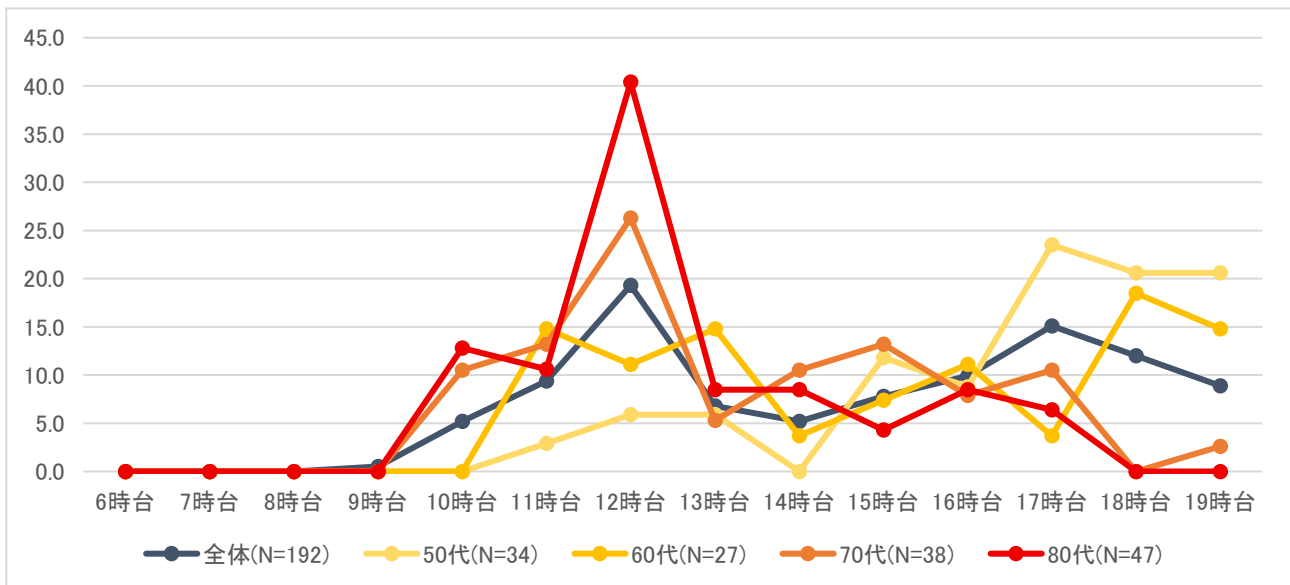


2. 帰り

路線バス往路の利用時間は12時台が最も多い。高齢層では8時から病院に出かけ昼食時間帯には帰宅するという行動パターンの確立が窺える。一方、50・60代は17時台以降の時間帯の利用が比較的多い。

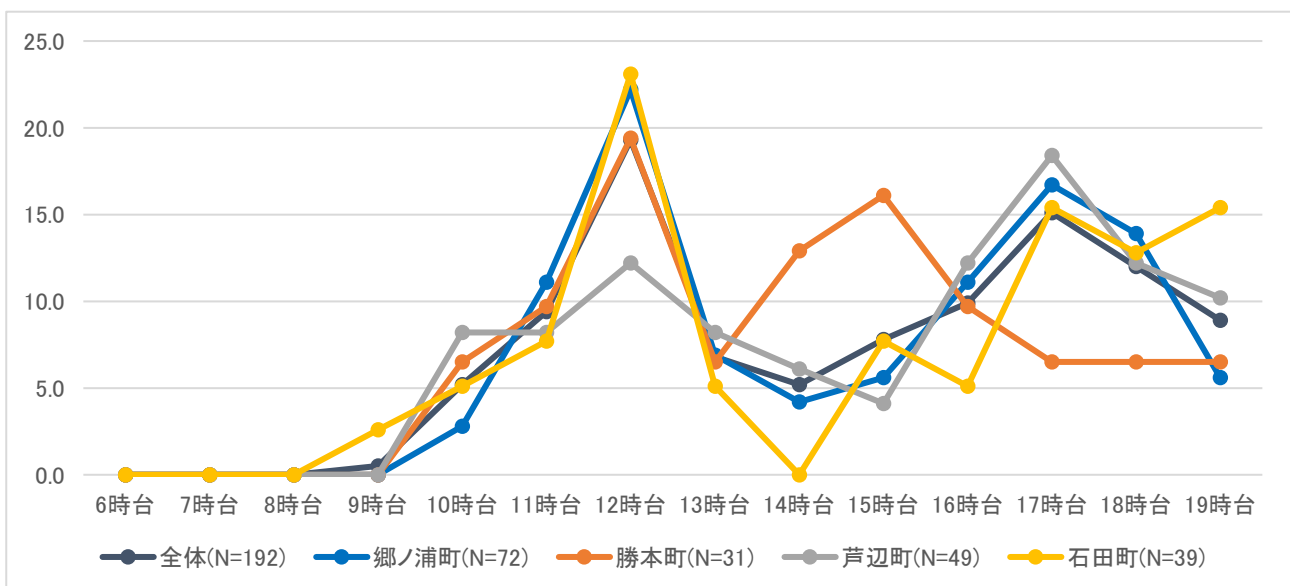
地域別では郷ノ浦町、芦辺町、石田町が12時台の利用が多く、勝本町では14・15時台の利用が最も多くなっている。

<年代別> (%)



※10～40代はサンプル数が10未満のため非掲載

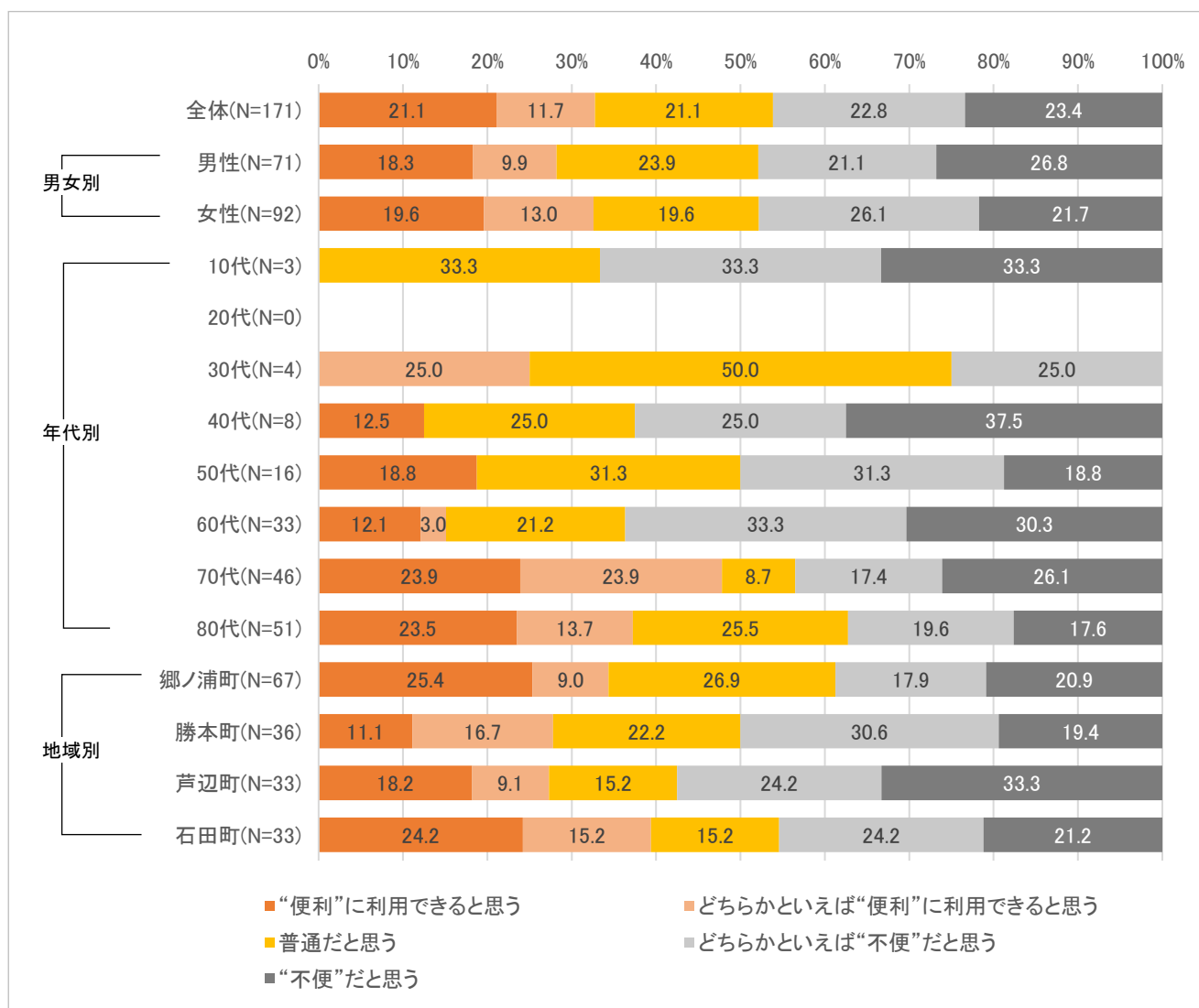
<地域別> (%)



問 1 2 : バスの利便性についてお聞かせください。(1つに○)

路線バスの利便性と尋ねたところ、「便利」「どちらかといえば便利」と思う割合が 32.8%、「不便」「どちらかといえば不便」と思う割合が 46.2%と「不便」の割合が上回る結果となった。年代別では頻度が低い 50-60 代で「不便」「どちらかといえば不便」の割合が高く、利用頻度が高い高齢層では相対的に満足度が高い結果がみられた。これはマイカーの利便性を基準とした評価を行っていることが要因の一つと想定される。

地域別でみると、芦辺町で最も利便性が低いという結果となった。

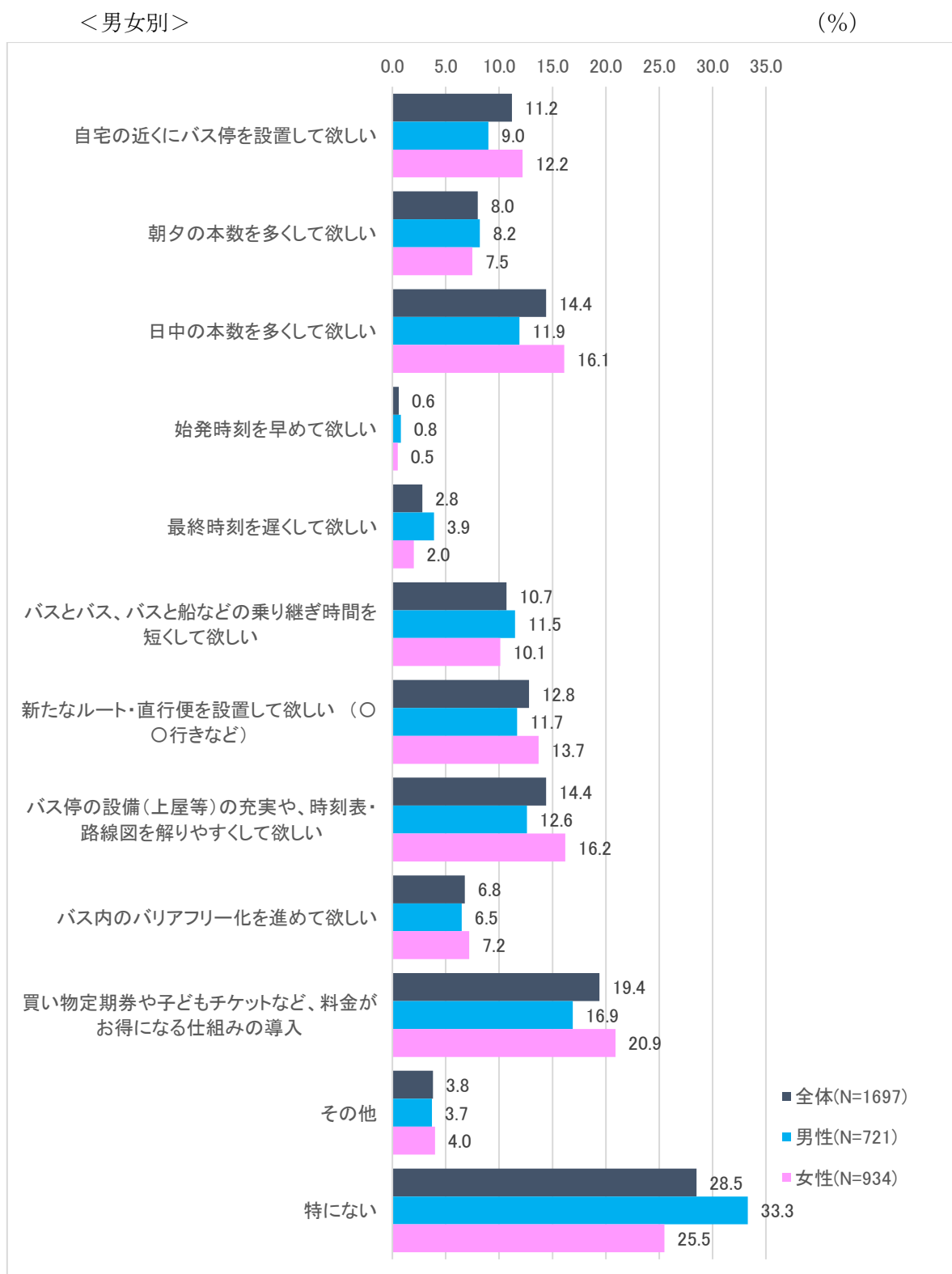


※10～40代は10サンプル未満のため参考掲載

※この質問はみなさんお答えください。

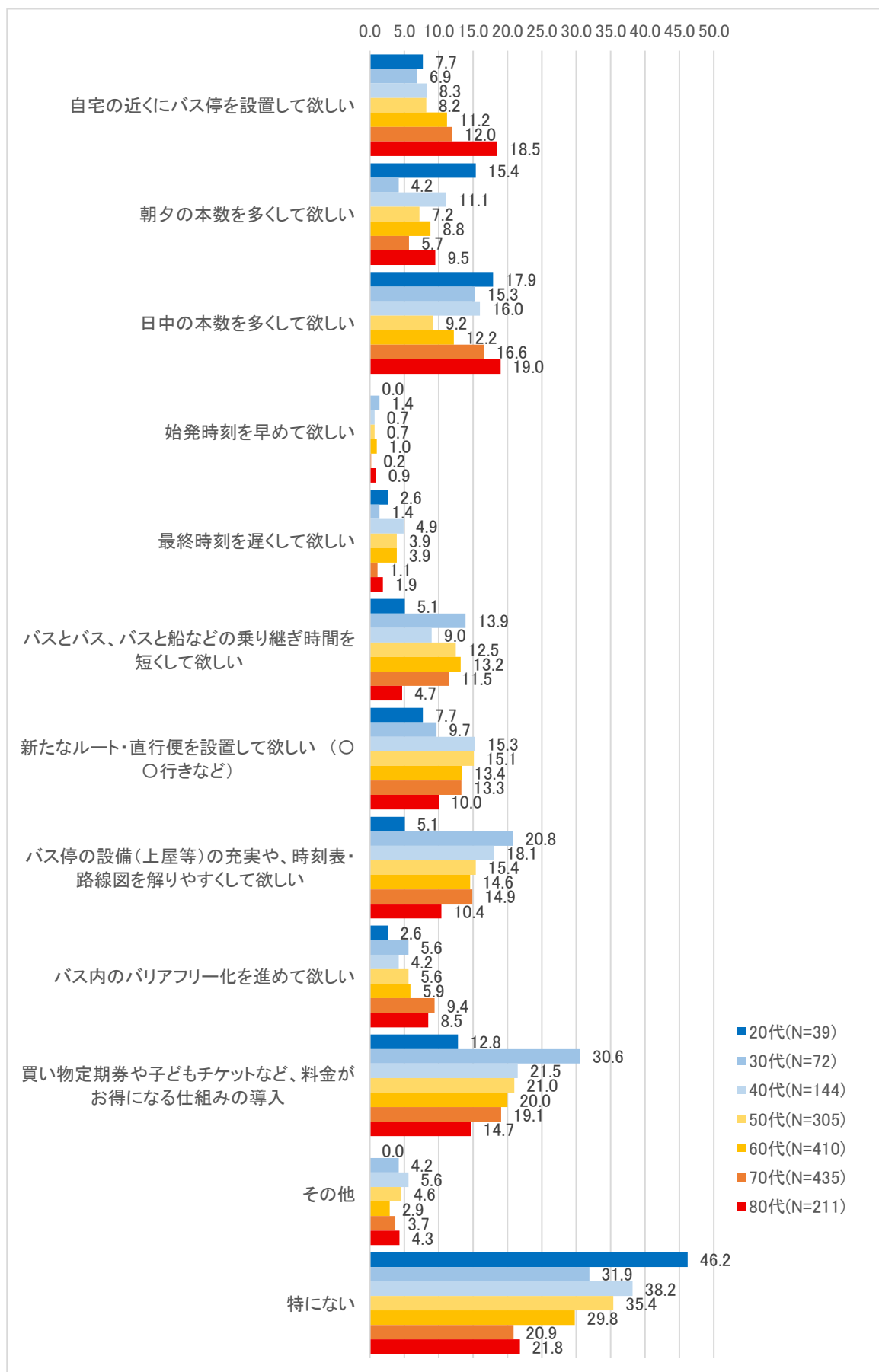
問 13：路線バスについて、改善して欲しい点をお答えください。（3つまで○）

路線バスの改善点を尋ねたところ、「特にない」が最も多いが、利用頻度が高い 80 代では、「日中の本数」に対する要望が多い。また、年代、地域を問わず「料金がお得になる仕組みの導入」が「特にない」に次いで多い。



<年代別>

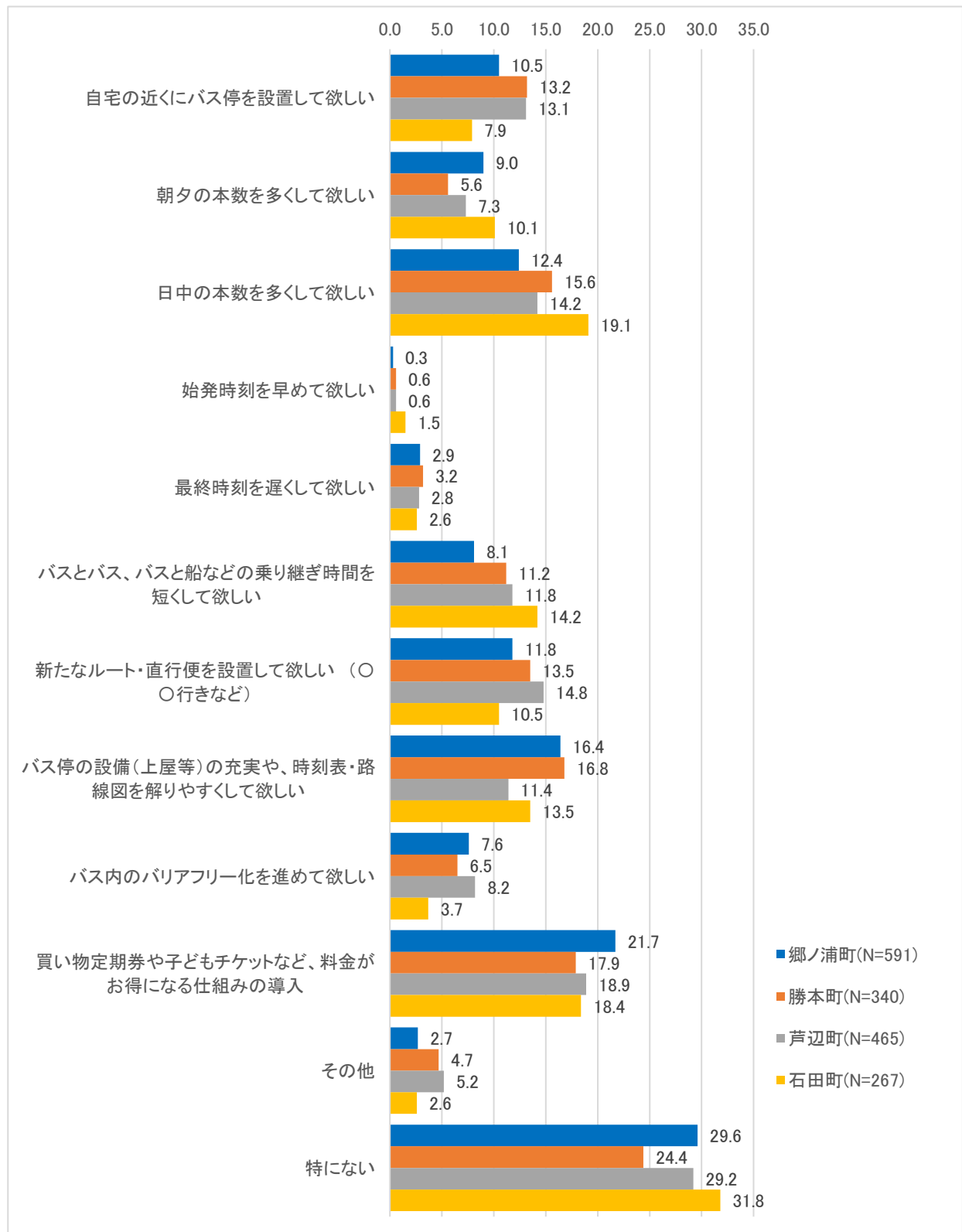
(%)



※10代は10サンプル未満のため非掲載

<地域別>

(%)

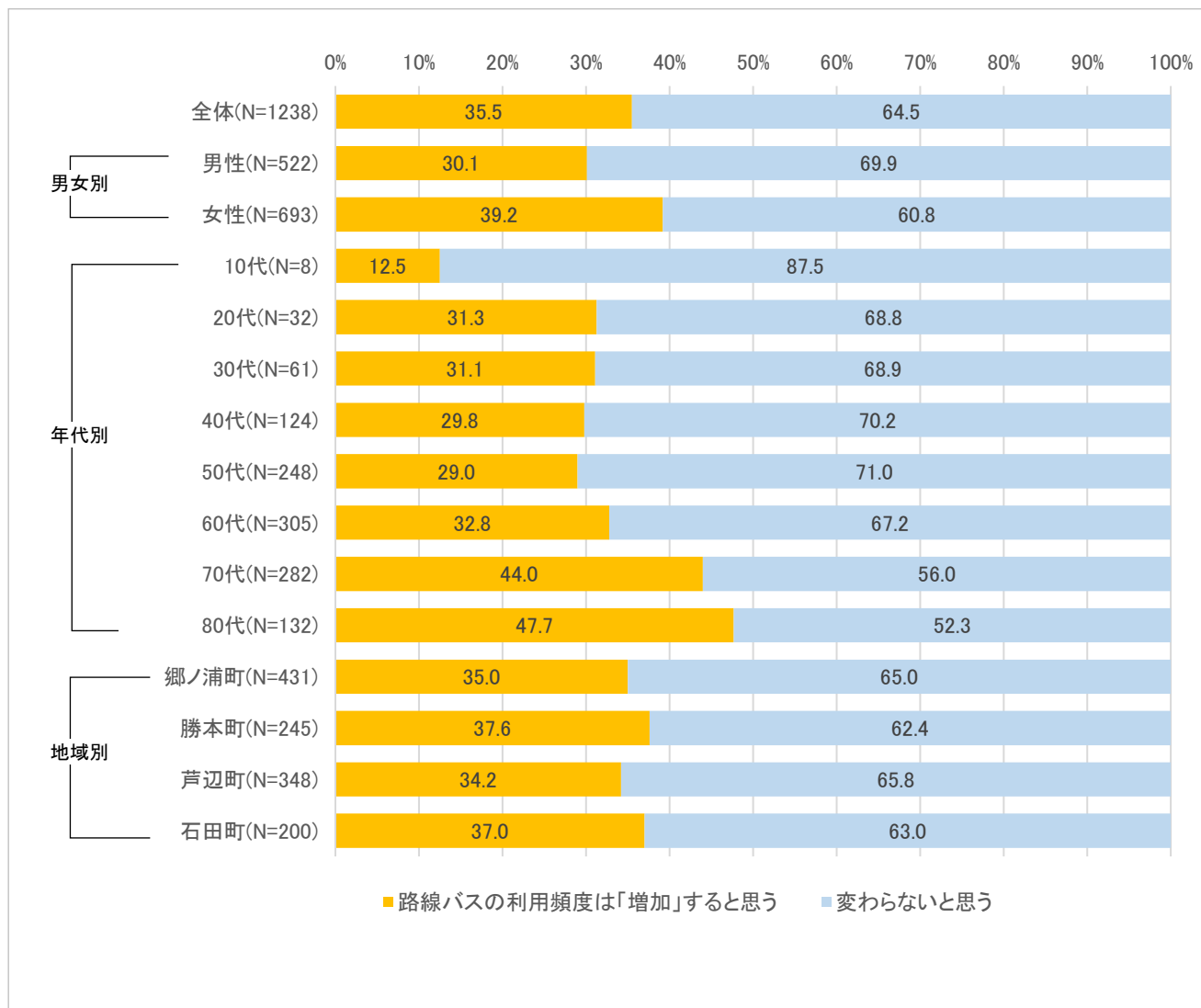


（自由意見）具体的な改善要望や、路線バスを使っていきたい場所などを自由にお書きください。

カテゴリ（意見数）	主な意見
路線・運行ルート・ 本数 (60)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域から壱岐病院、イオン、郷ノ浦、温泉施設、観光地などへの直行便や乗り継ぎ便の整備希望。 ・郷ノ浦港と芦辺港間、フェリー発着時間に合わせたバス運行。 ・現在の大型バスは過剰で、中型・小型バスの導入により本数増加を希望。 ・利用者が少ない時間帯は小型バスで対応すべき。 ・乗合タクシーやコミュニティバス導入による利便性向上を望む。
将来的な交通手段 (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴い、免許返納後でも買い物・通院・イベント参加ができる交通手段の確保。 ・小型バスや乗合タクシーで高齢者・移動困難者の生活を支援。 ・路線廃止は避け、最低限の交通手段を確保すべき。
バス停・待合環境 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停が遠く、設置場所や距離の改善を希望。 ・バス停に屋根やベンチの設置、横断歩道・街灯の設置。 ・初めて利用する人にも分かるよう、バス停表示や時刻表のわかりやすさ改善。 ・荷物の運搬や高齢者・障害者への配慮（バリアフリー化）。
運行体制 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全運転の徹底（速度、停止・発車の適正化）。 ・市民から信頼され、安心して利用できる運行体制の必要性。
利用料金・割引制度 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子ども、観光客向けの割引制度を希望（例：100円バス、シニア割）。 ・定期券やフリーパスの導入・拡充。 ・無駄な補助金を減らしつつ、小型バス運行で経済的に運用。
その他 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光用ルート整備（島内観光地をバスで乗り継ぎ）。 ・イベントや買い物に合わせた臨時便希望。 ・季節や日による運行便増加（年末年始、休日など）。 ・車輛の老朽化や排気ガスへの懸念。

問14：問13の改善ができた場合、今後の利用頻度は変わりますか。（1つに○）

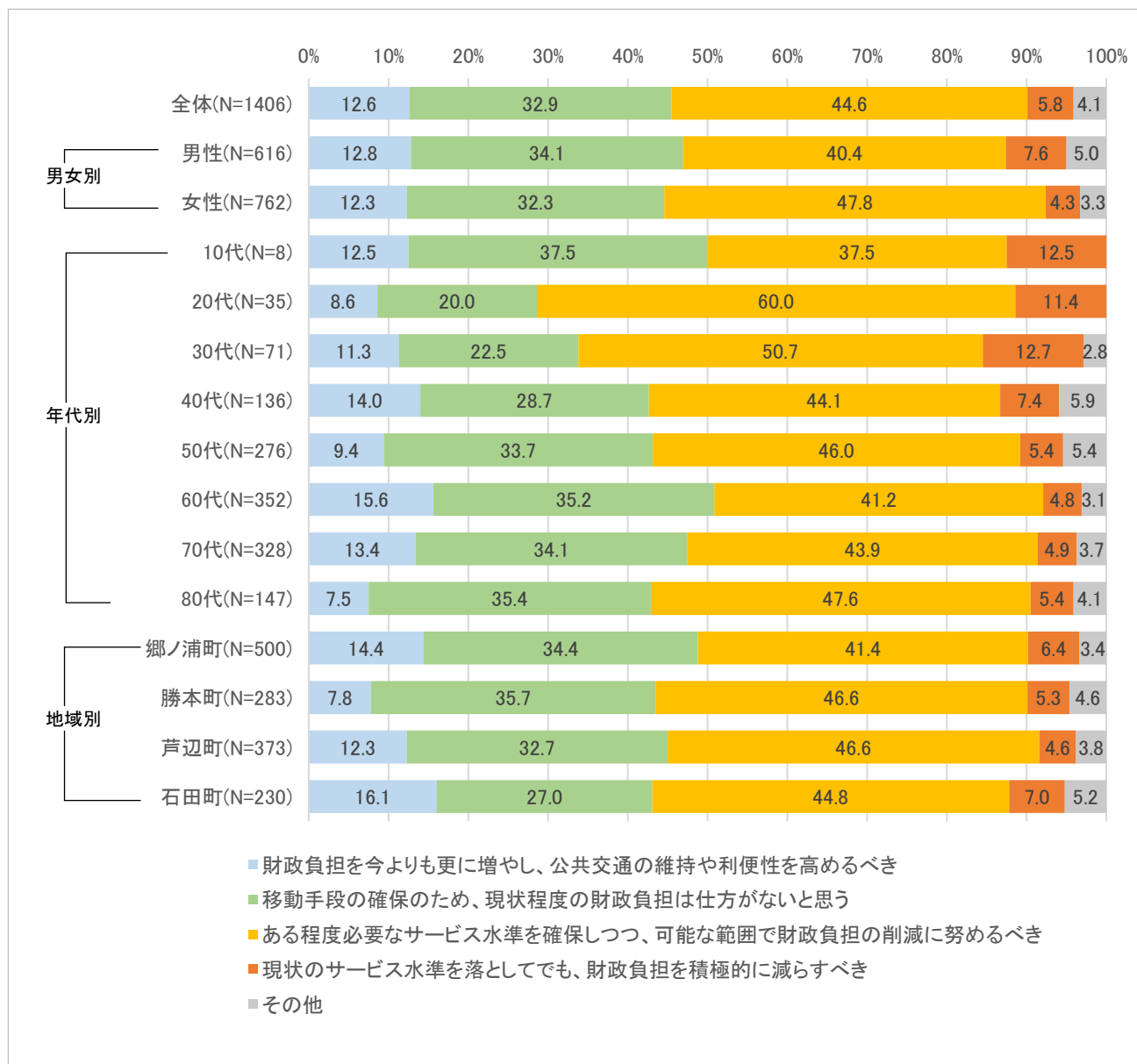
問題点が解消した場合の路線バスの利用頻度の増加可能性を尋ねたところ、全体の35.5%が「増加すると思う」と回答した。特に、70-80代の割合が多い結果となった。



4. これからの公共交通のあり方についてお尋ねします。

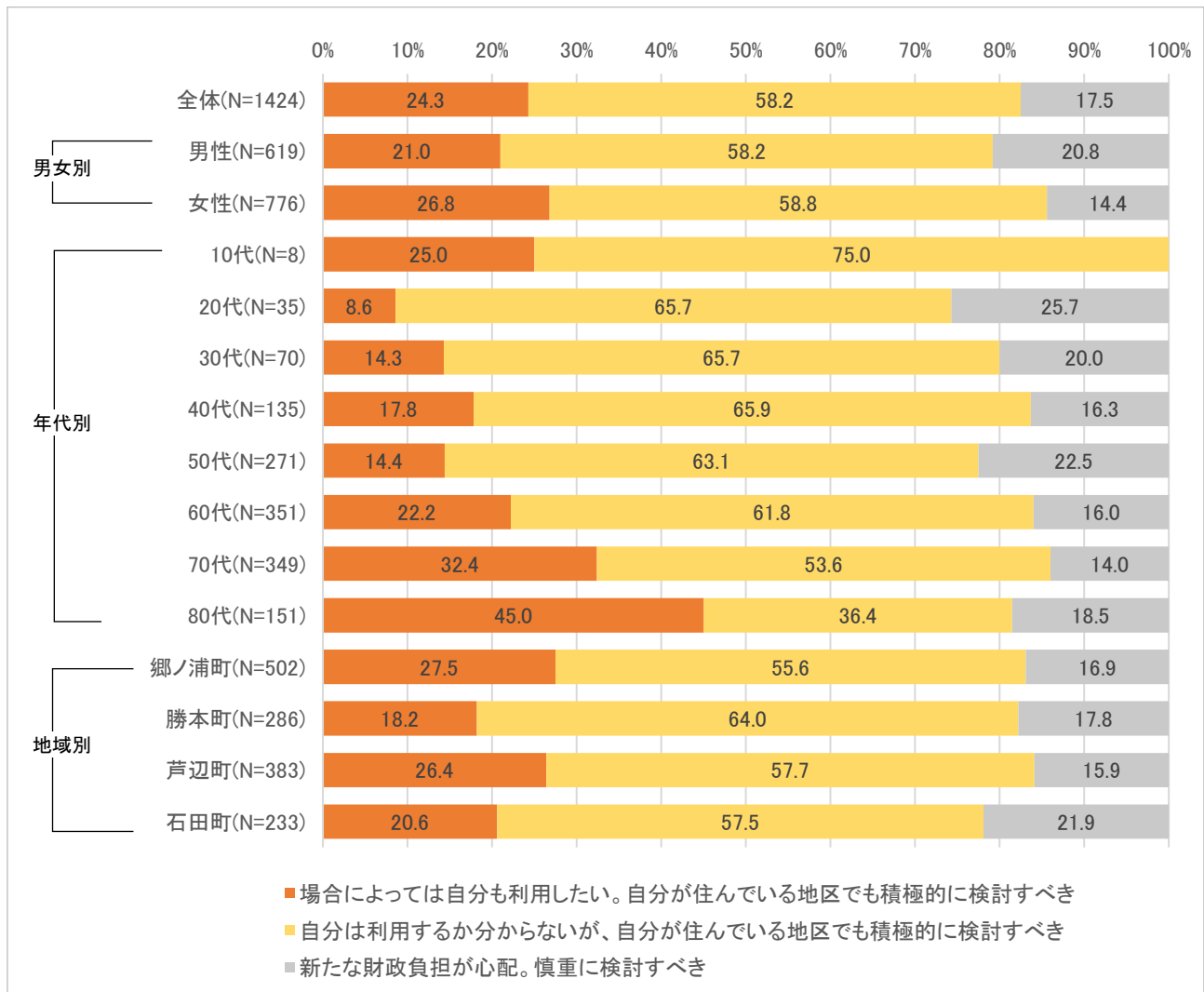
問 1 5 : 吉崎市では公共交通機関を維持するために、毎年、財政負担を行っています。今後、更に人口減少・少子高齢化を迎える中で、公共交通の維持はますます厳しくなることが予想されます。以上を踏まえ、今後の公共交通のあり方をお聞きます。(1つに○)

効率化による“財政削減”を指示するのは全体では 50.4%と過半数を超えた。年代別では、バス利用が少ない 20-30 代で財政削減を求める割合が多い。



問１６：近年、全国の自治体では、利便性の高い交通手段として、乗合タクシーなどの新交通システムの導入が進められています。本市でも初山地区・箱崎地区で運行しています。こうした取り組みについてどのように考えますか。（１つに○）

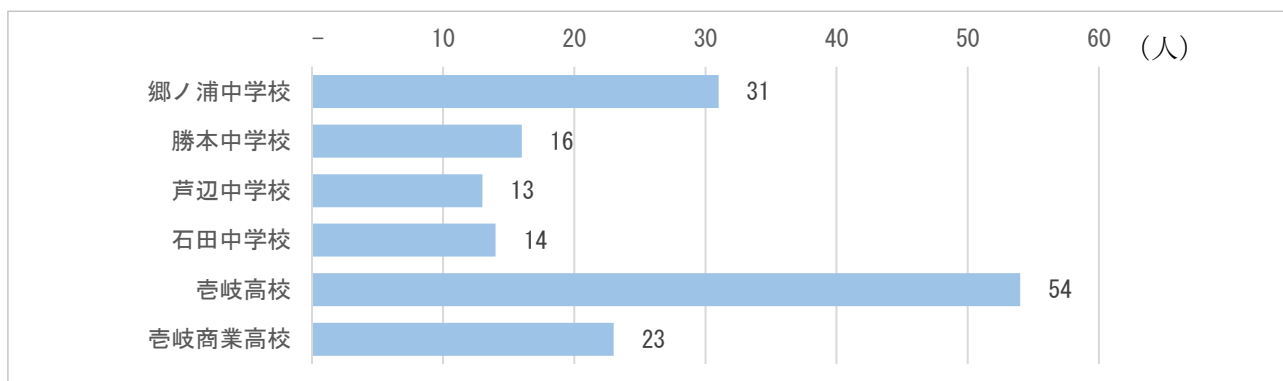
新交通システム等のニーズを尋ねたところ、全体では 80%以上が肯定的な意向を示しており、特にバス利用頻度が高い 80 代では 45%が「利用したい」という意向が確認された。



（自由意見）新たな交通手段について、ご自由にお書きください。※特に行きたい場所・施設があれば具体的にお書きください。

カテゴリ (意見数)	主な意見
乗合タクシー・ コミュニティタ クシーの導入・ 拡充 (80)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 免許返納者や高齢者の移動手段として必要。買物、通院、病院やスーパーへの送迎に役立つ。 ・ 現行のオレンジバスや予約制乗合タクシーのような仕組みを島全体に広げてほしい。 ・ 利用者数や費用対効果を考えつつ、低コスト・効率的な運用（小型車や曜日・時間帯の調整）が望ましい。 ・ 荷物や買物の多い場合に対応できる利便性の向上を希望。 ・ 行政の補助や助成金があれば利用しやすくなる。
路線バスの改 善・ 効率化 (30)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の少ない大型バスは廃止、小型バスやマイクロバスに置き換えるべき。 ・ 朝夕の利用者が多い時間帯に運行を集中させるなど効率化が必要。 ・ 路線やバス停、運行回数の見直しで利便性を向上させる。 ・ 学生向けスクールバスの活用で公共交通の負担を減らすことも有効。
島内の公共交通 の将来・財政面 への懸念 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通維持のためには財政支出が必要であり、合理的な予算配分を検討すべき。 ・ 高齢化や人口減少を踏まえ、効率的な交通政策や制度設計が急務。 ・ 無駄な運行よりも、必要な人へのサービス確保に予算を充てるべき。
具体的な行先 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・スーパー・市役所など生活必需施設へのアクセス。 ・ イベント会場、温泉、観光施設などへの送迎サービス。 ・ 家の前までの送迎や荷物の多い買物対応など利便性の向上を希望。イベントや買い物に合わせた臨時便希望。
新交通システ ム・テクノロジー 活用 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI 自動運転車両、ロボット自動車、オンデマンドバス、ドローンなどの先端技術導入に期待。 ・ 将来的な効率化や交通安全、財政負担軽減につながる可能性。
運転手・雇用へ の配慮 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新交通システムや乗合タクシー導入に伴い、既存バス運転手の雇用や待遇が損なわれないようにすべき。 ・ 運転手の負担軽減やサービス品質の向上を望む声もある。

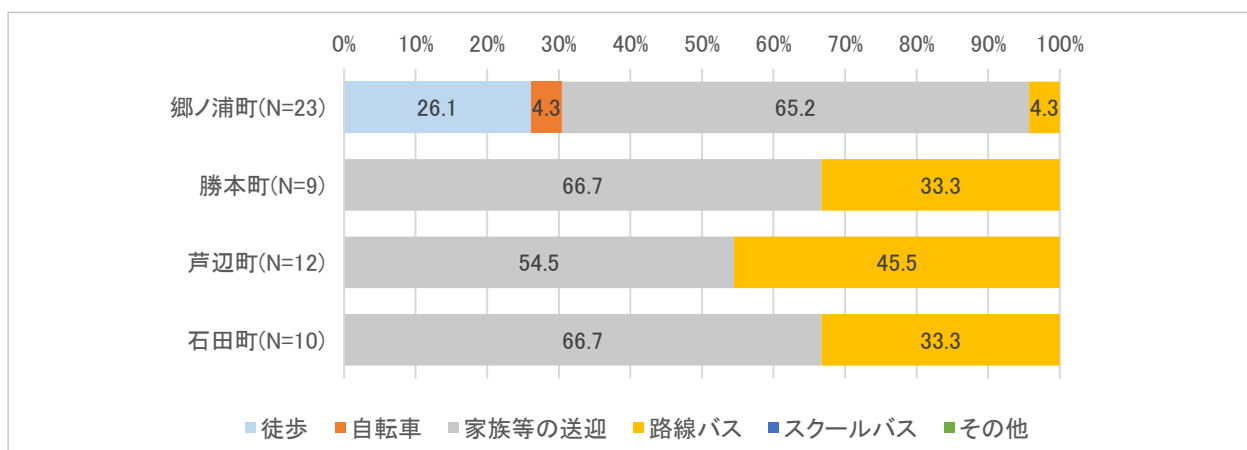
問 2 7：現在、お子さんはどちらの中学校・高校に通われていますか。（記入式）



問 2 8：現在の主な通学手段をお答えください。（1つに○）

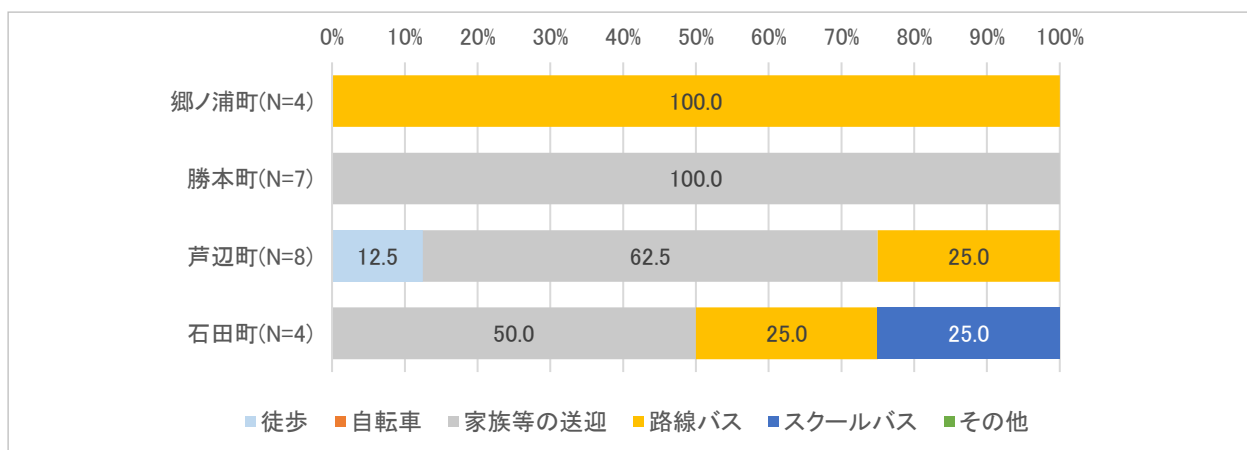
（壱岐高校）

壱岐高校への通学手段を尋ねたところ、郷ノ浦町では 65.2% が「家族送迎」であった。サンプル数が少ないものの、勝本町、芦辺町、石田町でも半数が「家族送迎」である。



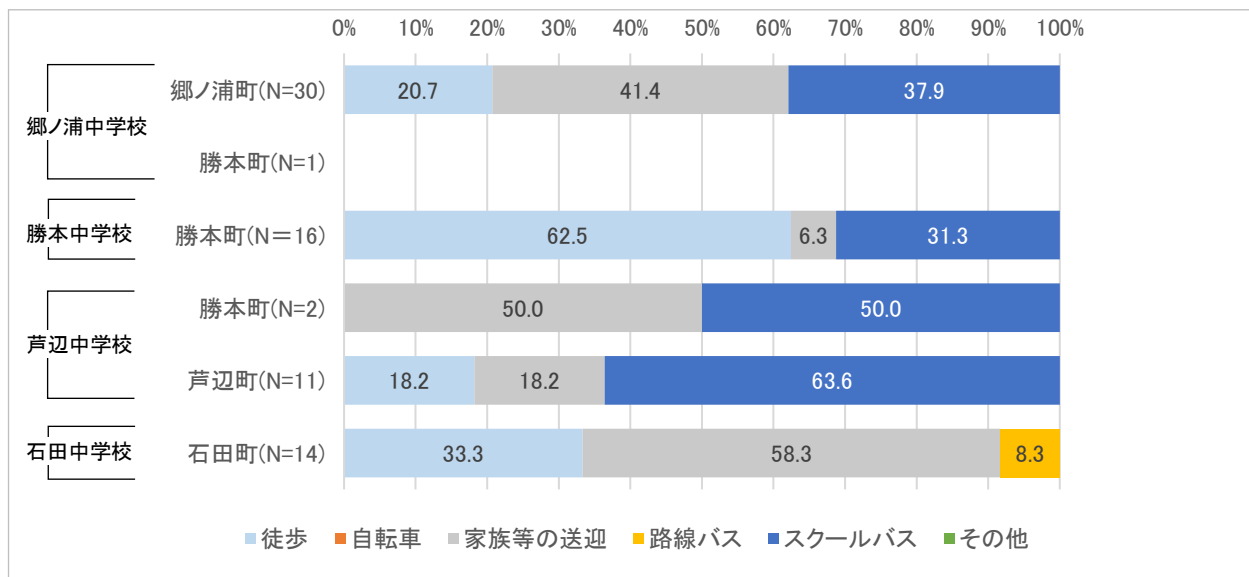
（壱岐商業高校）

壱岐商業高校へは、サンプル数が少ないものの勝本町、芦辺町、石田町で送迎が 50% を超えた。



（小中学校）

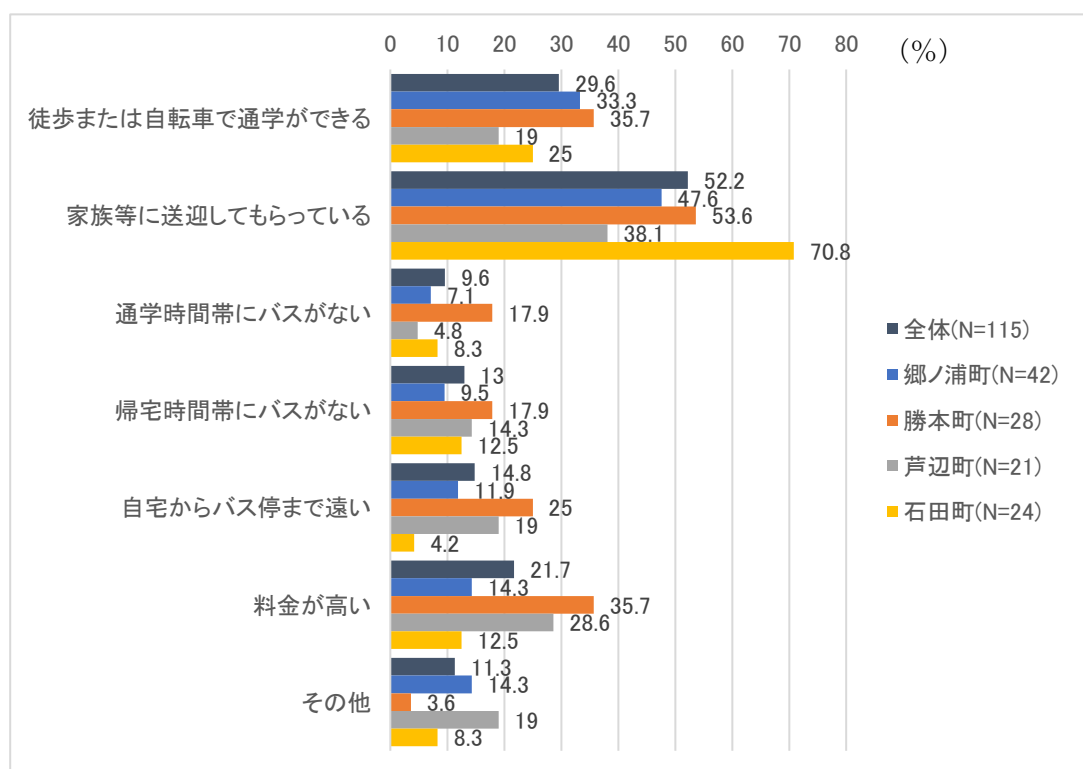
小中学校の送迎については郷ノ浦中学校、石田中学校では「家族等の送迎」、勝本中学校では「徒歩」、芦辺中学校では「スクールバス」が最も多い。



問 2 9：送迎など公共交通以外の方法で通学している方にお聞きます。公共交通を利用しない理由をお答えください。

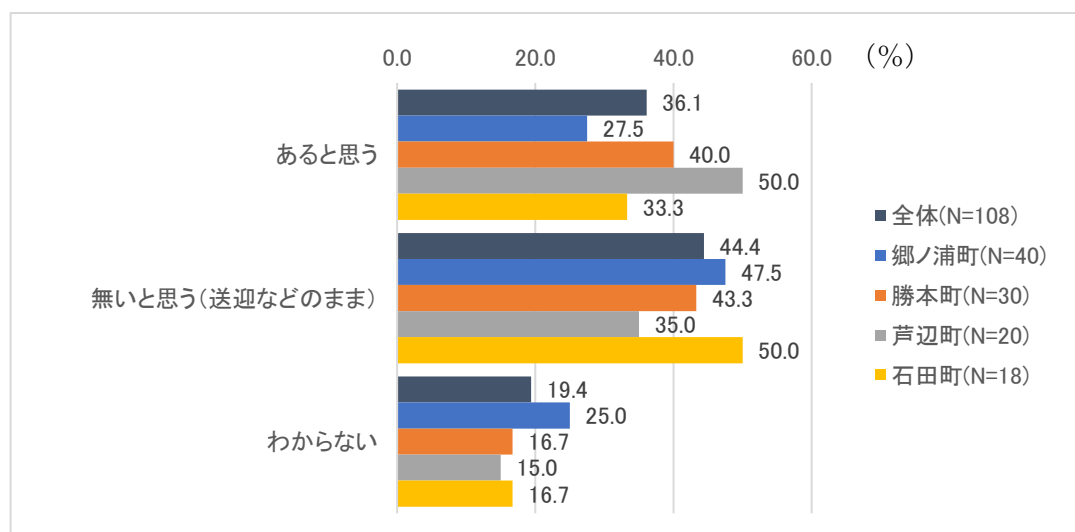
ア）公共交通を利用しない理由は何ですか？（該当するもの全てに○を付けてください）

公共交通を利用しない理由は「送迎してもらっているから」が 52.2%で最も多くなっている。「バスが無い」、「バス停まで遠い」などの物理的な理由によるものは 10%前後にとどまっている。



イ) 上記の問題点が解消された場合、公共交通を利用する可能性はありますか？（1つに○）

路線バスの利用可能性については芦辺町が50%で最も多く、勝本町、石田町、郷ノ浦町の順となっている。



<通学の移動手段に関する改善点要望などあれば自由にお書きください。>

◎路線バスの改善に関する自由意見

- ・ 高校生になると公共交通を利用するようになるが、便が少なく遠回りで時間がかかり不便。
- ・ バスの本数を増やしてほしい。特に夕方4時以降の便を増やしてほしい。
- ・ バス停の場所が遠く、利便性が低い。家の近くにバス停があり通学時間帯と合えば利用したい。
- ・ 路線バスの料金が高く、定期券も安くないため負担が大きい。
- ・ 路線バスが利用できるなら利用したいという声がある。
- ・ 乗り遅れ防止のため、バスの位置がわかるアプリがあると便利。
- ・ 路線バスでは対応が難しい地区もあり、乗合タクシーのような小回りの利く交通を増やすべき。
- ・ 現状は徒歩で問題ないが、将来的に公共交通が必要になると思う。

◎スクールバスに関する自由意見

- ・ 現在、地区によってスクールバスの利用可否に差があり、遠い地域の子どもも利用できるようにしてほしい。
- ・ 石田地区にはスクールバスがなく、部活動の荷物や教科書類が重く、保護者の負担が大きい。希望者は利用できるようにしてほしい。
- ・ 志原・柳田方面にもスクールバスを運行してほしい。
- ・ 部活動中止など急な帰宅時にも利用できると助かる。
- ・ 現在はスクールバスで通学しているが、帰りの便数が増えれば路線バス等も併用したい。
- ・ スクールバスがあればよいと思う。
- ・ 中学生では利用の必要はあまり感じないが、高校生になると利用機会が増えると思う。
- ・ 離島留学生にはバス代の補助があるが、島内通学生への補助も検討してほしい。学生にも高齢者パスのような制度を導入してほしい。
- ・ 保護者同士で送迎を交代制にすれば、負担軽減や渋滞緩和、環境負荷の低減につながる。

②まちづくり協議会等アンケート調査

調査概要

(1) 調査目的

壱岐市内各地区の公共交通機関に関する意見等を把握するために実施した。

(2) 調査対象

壱岐市内のまちづくり協議会・地区公民館 18 地区

※ 盈科、柳田、石田地区は地区公民館又は公民館連絡協議会

(3) 調査時期

令和 7 年 10 月

(4) 調査方法

郵送による配布、FAX による回収

(5) 回収数

有効回答数 16 票（回答率 88.9%）

校区名
盈科
渡良
三島
沼津
志原
初山
勝本
霞翠
八幡
田河
芦辺
那賀
箱崎
瀬戸
石田
筒城

※鯨伏地区は、回答は得られなかったが、聞き取りにより地域交通について、前向きな検討意向があることが確認できている。

< 調査票 >

協議会名とご記入者をお聞きます。

地区名	
記入者	
ご連絡先	

1. あなたの地区では、路線バスに関して、以下のような声を住民から聞くことがありますか？（複数選択可）

- ☐ 本数が少なくて不便
- ☐ 時間帯が合わない（朝早く・夜遅くの便がないなど）
- ☐ バス停が遠くて使いにくい
- ☐ 目的地に行けない／乗り継ぎが不便
- ☐ 運賃が高い
- ☐ 特に不便との声は聞かない
- ☐ その他（ ）

（具体的な意見・問題点）

2. 路線バスに関して、地域として具体的にどのような改善が望ましいと考えますか？（自由記述）

（具体的な意見・改善点）

3. 現在、地区住民の中で公共交通を使うことが難しいと感じている方(高齢者、子育て世帯、免許返納者など)への対応として、乗合タクシーの導入を検討することについて、どう思いますか？

- ☐ 積極的に検討してほしい
☐ 必要性は感じるが、実施には課題がある
☐ 必要性は低いと思う
☐ わからない

4. 乗合タクシーは、タクシー事業者による運行と、地区住民の協力による運行の 2 パターンがあります。仮に、あなたの地区で運行する場合、以下のような役割を担う人材を地区内で確保できる可能性はありますか。(それぞれに☑)
 ※いずれも有給を想定

		確保できそう	どちらともいえない・わからない	難しそう	意見・条件など
ドライバー	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
予約受付・調整係	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

5. 地域で乗合タクシーを導入する場合、どのような方式が望ましいと考えますか？
 (複数選択可)

- ☐ 電話での予約制
☐ スマートフォンアプリ等での予約制
☐ 定時・定路線運行(バスに近い形)
☐ 主要施設への送り迎え型(病院、スーパーなど)
☐ 住民ボランティアによる運行
☐ その他(.....)

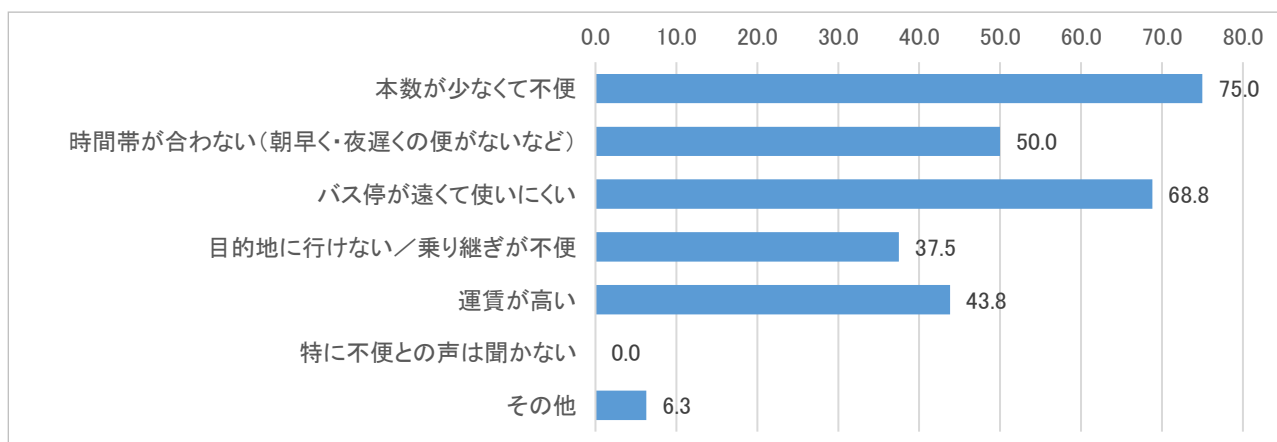
6. その他、地域の交通に関して感じている課題、改善のアイデア、懸念点などがあればご記入ください。(自由記述)

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

問1. あなたの地区では、路線バスに関して、以下のような声を住民から聞くことがありますか？

「本数が少なくて不便」が最も多く 75.0%、次いで「バス停が遠くて使いにくい (68.8%)」、「時間帯が合わない (朝早く・夜遅くの便がないなど) (50.0%)」となった。

(単位：%、N=16)



地区	本数が少なくて不便	時間帯が合わない (朝早く・夜遅くの便がないなど)	バス停が遠くて使いにくい	目的地に行けない／ 乗り継ぎが不便	運賃が高い	特に不便との声は聞かない	その他
盈科							●
渡良	●	●					
三島		●					
沼津			●	●			
志原	●	●	●				
初山	●		●	●	●		
勝本	●	●		●	●		
霞翠	●	●	●				
八幡	●		●		●		
田河	●		●		●		
芦辺	●	●		●	●		
那賀	●		●				
箱崎			●				
瀬戸	●	●	●	●			
石田	●		●		●		
筒城	●	●	●	●	●		
回答数 (件)	12	8	11	6	7	0	1

(具体的な意見・問題点)

ダイヤ・路線構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元住民・島外来訪者ともに、時間帯が合わず利用が現実的でない。 【勝本】 ・ 目的地に直行できない・乗り継ぎに時間がかかるなど、利用を断念する 場合が散見される。【勝本】 ・ 乗り継ぎ時、方面によっては待ち時間が長い。目的の時間にバスの時間 が合わず土日でも使いにくい。【芦辺】 ・ 「病院が終わる時間にバスがない」「次のバスまでの時間が空きすぎて 結局タクシーで帰ることになった」と聞けることが多い【三島】 ・ 便数が少ない【那賀】
高齢者の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスのステップの昇降が辛いので、できるだけ乗り継ぎなしで目的地に 行きたいという要望がある。【筒城】
地域・系統ごとの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山崎線：便数が少なく利用しづらい。【筒城】 ・ 印通寺地区：病院が少なく、他町の病院（特に壱岐病院）へのアクセス が悪い。（印通寺に朝・昼２便のみ）【筒城】 ・ 在部地区は芦辺線しかバス停がなく、田河線がないため不便。【八幡】 ・ 旅行者の立ち寄りも多いが、湯本に直接いけず案内が難しい場面が多々 ある【芦辺】
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨風の日にはバス停で雨宿りできない箇所がある【沼津】 ・ 最寄りのバス停までが遠い。【沼津・志原・霞翠・那賀・田河・筒城】 ・ 東触のようにバス停のない地区もある【霞翠】 ・ 行き先が複数あるわけではないのに、１日券が高い【芦辺】

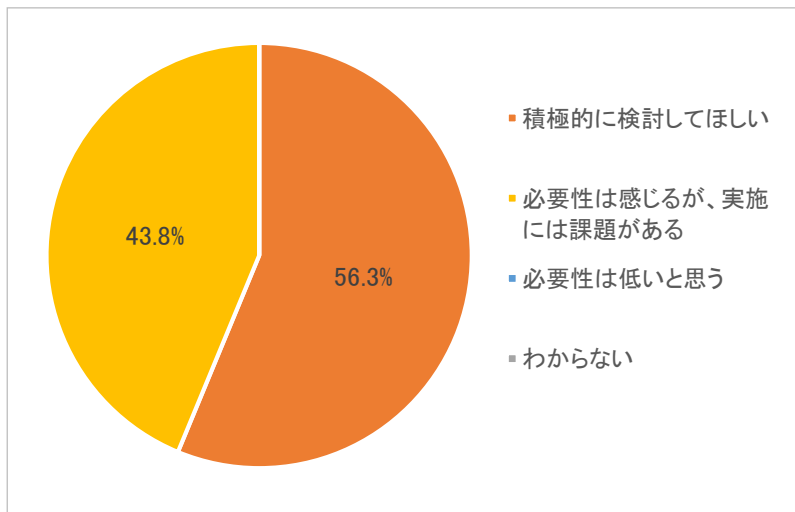
問2. 路線バスに関して、地域として具体的にどのような改善が望ましいと考えますか？

路線・ダイヤの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線場所を増やす。往復 5 kmもあるが、路線バスで黒崎入口バス停から猿岩へ歩いている観光客を見る【沼津】 ・ バス停の増設、便数増加など改善を望む声は多い。【霞翠】 ・ 路線の見直しと午前中～昼の本数の見直し（通院、通学や買い物に使用するため）【八幡】 ・ バス路線から外れたところにも集落が多く点在しており、各集落からバス停に出るまでの交通手段がない。バス停に出たとしても、路線バスの便数が決して多くないことから、高齢者をはじめ、徒歩で移動しづらい住民は、結局は買い物や通院のために自家用車に頼らざるを得ない。しかしながら、高齢者は免許を返納したら、シニアカーか便数の少ないバスを使うしかないのが現状。【田河】 ・ 需要の高いバスポイント、ルート、時間帯の見直し。瀬戸方面（イオン、フェリーターミナル行）で当田を回らないルート、12～13 時台の時間帯の便を増やす等。現在の時刻だと芦辺港船便には到着がギリギリでバスの選択ができない。【芦辺】
車両・運行形態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者は足腰が弱く、大型バスだと乗降が大変。人口減少により 1 度に乗る人数も少ない時間帯が多いと思うので、小型バスをもっと増やしてほしい。【勝本】 ・ 大きなバスを高い燃料で走らせるよりは小さな小回りのきく車を導入してもらいたい。【三島・筒城】
高齢者・交通弱者への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通弱者等が利用しやすいように改善することが望ましいとは思いますが、具体的なアイデアは浮かばない。【盈科】 ・ 危険な運転をしている高齢者を見掛ける事も少なくない。車なしでは生きられない地域だからといつまでも免許を返納せず事故を起こしているケースもある。誰もが安心して暮らせるようサポート体制を整えたい。【筒城】
コミュニティバスへの評価と要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の足、特に交通弱者に対する公共通行手段維持されている。運行区域の延長、日曜運行が課題。【初山】 ・ 会員数 230 名余りとなり高齢化が進む中で非常に喜ばれ期待されている。しかし、利用者数としては、月 80 名～100 名程度でそのほとんどが 80 代以上で、利用先は病院、美容院、買い物、金融機関。会員又は地域から要望があっているのは、もう少し運行範囲の拡大。【箱崎】
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通系 IC カードの導入。1 日乗車券を勝本でも購入できればよい。【勝本】 ・ バス路線は、常に伐採してほしい 通学路でもある。【志原】 ・ 道沿いの樹木が道に差し掛かってそれをバスがよける為、センターライン付近を走り、ヒヤッとされる方がいる。樹木の伐採を！【沼津】

問3. 現在、地区住民の中で公共交通を使うことが難しいと感じている方（高齢者、子育て世帯、免許返納者など）への対応として、乗合タクシーの導入を検討することについて、どう思いますか？

「積極的に検討してほしい」が 56.3%で最も高く、「必要性は感じるが、実施には課題がある」が 43.8%となった。「必要性は低いと思う」と回答した協議会等は 0%。

（単位：％、N=16）



地区	積極的に検討してほしい	必要性は感じるが、実施には課題がある	必要性は低いと思う	わからない
盈科		●		
渡良	●			
三島		●		
柳田				
沼津		●		
志原		●		
初山	導入済みのため、無回答			
勝本		●		
霞翠	●			
八幡	●			
田河	●			
芦辺		●		
那賀	●			
箱崎	●	●		
瀬戸	●			
石田	●			
筒城	●			
回答数（件）	9	7	0	0

※SA（単一回答）であるが、箱崎地区が複数選択にて回答しているため合計が 100%にならない

問4. 乗合タクシーは、タクシー事業者による運行と、地区住民の協力による運行の2パターンがあります。
仮に、あなたの地区で運行する場合、以下のような役割を担う人材を地区内で確保できる可能性はありますか。※いずれも有給を想定

ドライバー、予約受付・調整係ともに「どちらともいえない・わからない」が最も高く、「確保できそう」が30%台となった。ドライバーでは11.8%が「難しそう」と回答した。

【ドライバー】（単位：％、N=16）

【予約受付・調整係】（単位：％、N=16）



（意見・条件など）

- ・ 運行時間帯や休日、報酬など柔軟な対応ができるか不安がある。
- ・ 運転免許（特に二種免許）を持つ希望者が確保できるか不明。
- ・ 60 歳以上の人材はいるが、それ未満の担い手は少ない。
- ・ 完全なボランティアは難しく、事故やケガへの補償体制が必要。
- ・ 給金次第

（意見・条件など）

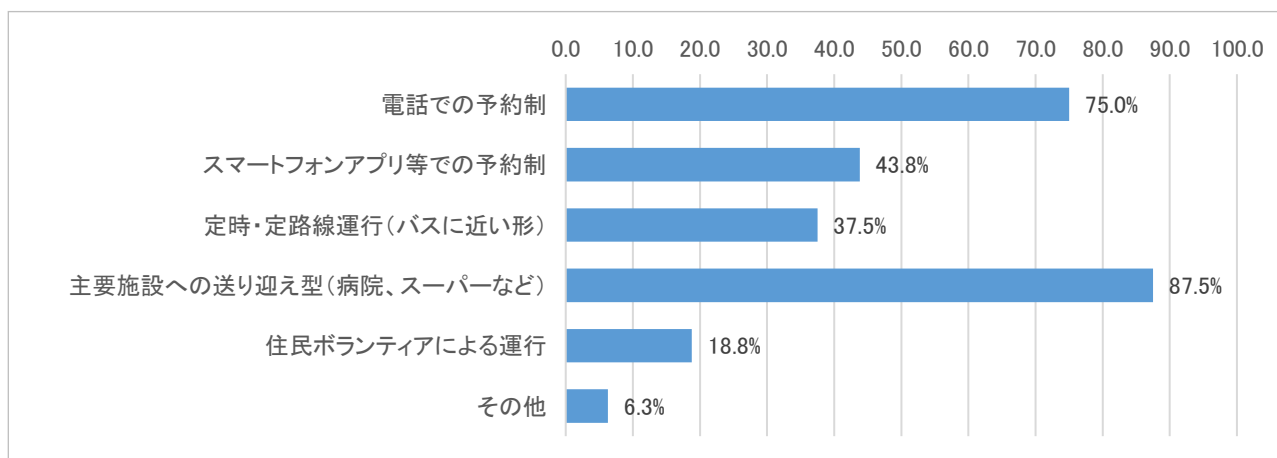
- ・ 複数地区の受付を集約し、せめて1日2人以上の体制で。
- ・ 初山では時間外予約などが多い。何らかの対応の検討が必要。
- ・ 予約受付や調整係であれば、まちづくり協議会の事務局でも対応できると思う。
- ・ まち協事務局が兼務しているが、利用者増加でまち協の業務に支障が出ている。

地区	ドライバー	予約受付・調整係
盈科	どちらともいえない・わからない	どちらともいえない・わからない
渡良	どちらともいえない・わからない	どちらともいえない・わからない
三島	難しそう	難しそう
沼津	難しそう	どちらともいえない・わからない
志原	確保できそう	確保できそう
初山	確保できそう	確保できそう
勝本	どちらともいえない・わからない	どちらともいえない・わからない
霞翠	どちらともいえない・わからない	確保できそう
八幡	確保できそう	どちらともいえない・わからない
田河	どちらともいえない・わからない	どちらともいえない・わからない
芦辺	確保できそう	どちらともいえない・わからない
那賀	確保できそう	確保できそう
箱崎	確保できそう	確保できそう
瀬戸	どちらともいえない・わからない	どちらともいえない・わからない
石田	どちらともいえない・わからない	どちらともいえない・わからない
筒城	どちらともいえない・わからない	確保できそう

問5. 地域で乗合タクシーを導入する場合、どのような方式が望ましいと考えますか？(複数選択可)

「主要施設への送り迎え型（病院、スーパーなど）」が最も多く 87.5%、次いで「電話での予約制（75.0%）」となった。

(単位：%、N=16)



地区	電話での 予約制	スマートフォン アプリ等での 予約制	定時・定路線 運行(バスに 近い形)	主要施設への 送り迎え型 (病院、スーパ ーなど)	住民ボランテ ィアによる 運行	その他
盈科			●	●		
渡良		●		●		
三島	●		●	●		
沼津	●			●		
志原	●	●	●	●	●	
初山	●			●	●	
勝本	●	●				
霞翠	●	●		●		
八幡	●			●	●	
田河	●		●	●		
芦辺		●	●			
那賀	●	●		●		●
箱崎	●			●		
瀬戸	●	●	●	●		
石田				●		
筒城	●			●		
回答数 (件)	6	3	3	8	2	0

(その他)

- ・ 予約制にして訪問したいところ全てを回る

問6. その他、地域の交通に関して感じている課題、改善のアイデア、懸念点などがあればご記入ください。

渡良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの減少により、<u>クラブ活動</u>が小学校単位では難しくなり、他の小学校と合同で実施することが予想されるので、<u>何らかの移動支援があればとの要望</u>がある。
三島	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスが大きすぎ。<u>中型で良い</u>のではないのでしょうか。バスの中は運転手のみ。お客さんはほとんど見受けられない。
沼津	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗車人数が少ないので、大型バスは必要ないかと。<u>スクールバスは昼間の活用ができそう</u>ですが
志原	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>無免許の高齢者</u>が家から出てこないように感じる。定期的な外出を促すように<u>無料の観光バス</u>などを運行してほしい。
初山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急速な高齢によって交通弱者が増えることに対応できるか不安。<u>満員になる便が徐々に増えつつある</u>。(9人乗りであるが、助手席は乗せず8人定員) ・ <u>スクールバスの活用方も検討する価値がある</u>。 ・ 平日と土日祝の運行方法を変えることも検討中 ・ <u>ドライバーの確保が課題</u>である。60歳代の確保が難しくなる。定年は75歳としている。少なくとも3名は必要である。
勝本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的地に行くための交通なので、目的地に都合に合わせて行けないのは残念でならない。勝本の場合は、乗り継ぎするためにはまず郷ノ浦に行かねばならず、郷ノ浦以外の場所に行こうとすると時間・距離ともに大幅増となることが多い。例えば、<u>那賀や鯨伏など壱岐の中心地に乗り継ぎ拠点を作り同心円状に運行するようにするなど、路線自体を見直す必要があるのではないだろうか</u>。公共交通機関がなくなれば様々な弊害が生まれることは想像に難くない。最初から各地区の個別の対応にばかり頼るのではなく、根本的な部分の見直しをもっとしていただきたい。
霞翠	<ul style="list-style-type: none"> ・ この地域においては、家が散在しているので<u>それぞれの個人宅側まで移動手段を動かさないと利便性もなく、利用者数も見込めない</u>。よって、予約制による利用者宅巡回の乗り合いタクシー、もしくは既存のタクシー利用に対して助成金を支給する方法が考えられる。ただし、乗り合いタクシーを運行する場合のドライバーの確保が難しい。また地域内には大型商業施設・病院等も無く、他地区のような<u>地域限定の運行状況では利用者ニーズに全くそぐわない</u>。
八幡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通院したいときに、家族や兄弟の都合が悪く車の確保ができないときがあると、高齢者から話が出ることもある。<u>乗り合いタクシーを配置できたら解消につながる</u>のではないかと思う。ただ、事故等などのときの保障なども気になるので実施することになれば住民参加の説明会も必要かと思う。

田河	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化による人口減少等により路線バスの利用者は減少傾向にある。対して、高齢化率の向上もあり、路線バスの乗り降りに介助を必要とする高齢者や自宅からバス停まで行けない高齢者は増加傾向にあるのではないかと。このため、今後は住民などが地域ぐるみで地域活動等との連携により利用者を確保するなど、地域が一体となった取組みが求められています。
芦辺	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい路線バスの形はあったら良いかと思いますが、人口減少もあり、そこへ要望をあげたとして、どこまで対応して貰えるのかという心境があると思います。この地区でも免許返納者の方は続々と増えている感じはありますが、路線バスの不便さは感じつつ、その間迫る実際の生活が優先で路線バスに合わせた生活をされている様子もうかがえます。また、スマートフォンを上手く使えてない高齢者も多く、ここ数年ではスーパー等で独自に送迎車を出していたりするので、利用する方は一カ所に定時で集まる形式に慣れてきている様子もあり、ライドシェアやスマート予約など理想の形も未だ未だ導入されていないのが現状ですが高齢者への導入を積極的にしている自治体、地域もあるため早く壱岐でもその形が見られるといいなと個人的には思います。まち協にも相談はありますがどこからこの課題を協議出来るのか住民の皆さんもよく見えてないところで、これに関しては協議が進まないものの1つです。
那賀	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小型車及びワンボックスカーにして小回りの利く運営を期待します
筒城	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他のまちづくり協議会のコミュニティバス事業を見ると、町をまたいでの運行はできないようになっているが、現在運航中の初山は郷ノ浦町、箱崎は芦辺町と生活に必要な施設はほとんど町内に揃っている。その点石田町は医療機関も少なく、スーパーやコンビニ、ドラッグストアもない。<u>筒城でコミュニティバス事業ができるなら、少なくとも医療機関に限ってでも町をまたいでの運行を許可していただきたい。</u> ・ 狭い地区なのでドライバーが筒城の人というのは良い点でもあり悪い点でもある。人選については慎重に討議をしていかななくてはならない。 ・ <u>ドライバーが完全なボランティアというのは難しい</u>と思う。筒城は人口が減少の一途を辿っており、人口に対して支給されるまちづくり協議会の交付金は、現在基礎額 1, 223, 000 円、地域活性化型活動に対する加算額を足しても 1, 373, 000 円。この中から人件費を捻出するというのは不安がある。市からの補助は考えられないだろうか。

③高校生アンケート調査

調査概要

(1) 調査目的

壱岐市内の高校生の通学状況や公共交通機関に関する意見等を把握するために実施した。

(2) 調査対象

壱岐高校、壱岐商業高校の1～2年生 368名

(3) 調査時期

令和7年10月

(4) 調査方法

学校を通じて配布・回収、WEBによる回収

(5) 回収数

有効回答数 258票（回答率 70.1%）

彦岐市公共交通に関するアンケート調査票 （ 高 校 生 用 ）

現在、彦岐市では公共交通の維持・活性化に向けた検討を行っています。このアンケートは検討の基礎資料として高校生（1年生、2年生）の皆さんの通学状況や路線バス利用のご要望等についてお聞きするものです。より良い公共交通のため、アンケートにご協力をお願いします。回答にあたっては保護者の方のご意見も参考にお答えください。

本調査票への記入のほか、右記の QR コードまたは下記 URL から専用フォームにアクセスし、WEB による回答も可能です。

WEB で回答いただいた場合は紙での提出は不要です。紙で提出する場合は10月23日（木）までに学校へ提出をお願いいたします。

【WEB 回答 URL】：<https://questant.jp/q/ikikotsu2025-koko>



（問1）以下について、当てはまるものに○又は記入してください。

学校名	① 彦岐高校 ②彦岐商業高校
学年	① 1 年生 ② 2 年生
住まい ※町を選択し、地区名を記入してください。	①郷ノ浦町 ②勝本町 ③芦辺町 ④石田町
	地区名 { _____ }
	記入例 { 武生水 }
部活参加の有無	①参加している ②参加していない
	通学時 { _____ } 帰宅時 { _____ }
主な移動手段 ※通学時、帰宅時に当てはまる番号をそれぞれ1つ記入してください	①路線バス（定期券） ②路線バス（普通料金・回数券） ③徒歩 ④自転車 ⑤自家用車（保護者の通勤などのついでに送迎を受けている） ⑥自家用車（通学目的で送迎を受けている） ⑦その他（通学時 _____、 帰宅時 _____）
通学時間帯 ※例えば、午後2時の場合は 14 時と記入	〔自宅出発時間〕 → (_____) 時 (_____) 分ごろ 〔学校を出る時間〕 → (_____) 時 (_____) 分ごろ
通学の所要時間	(_____) 分程度 ※分で記入してください
通学以外での 路線バス利用の有無	※塾、買物や遊びに行く時などは？ ①利用している ②利用しない

(問2) この問題は送迎など路線バス以外の方法で通学している方にお聞きします。
(それ以外の方は問4へ進んでください)

路線バスを利用しない理由をお答えください。(該当するもの全てに○)

- ①通学時の時間帯に合うバスが無いから
- ②帰宅時の時間帯に合うバスが無いから
- ③通学時に送迎してもらっているから
- ④帰宅時に送迎してもらっているから
- ⑤自宅の近くにバス停が無い・バス停まで遠いため
- ⑥所要時間が長いから
- ⑦乗り継ぎが不便だから
- ⑧料金が安いから
- ⑨バスを利用する必要があるから(徒歩・自転車など)
- ⑩その他()

(問3) どのような取組を行えば、あなたは路線バスを利用しますか、または利用頻度が高くなると思いますか。(1つに○)

- ①乗りたい時間にあれば利用頻度が高くなると思う
- ②行きたい場所に行けるようになれば利用頻度が高くなると思う
- ③運賃(定期券)が安くなれば利用頻度が高くなると思う
- ④通学時、片道利用ができる「片道定期券」が半額程度であれば利用すると思う
- ⑤待ち時間が短くなったり、乗り継ぎが便利になれば利用頻度が高くなると思う
- ⑥乗車時間が短くなれば利用頻度が高くなると思う
- ⑦バス車内でWiFiが使えるようになれば、利用すると思う
- ⑧利用することはないと思う
- ⑨その他()

(問4) 総合的にみて「路線バスの満足度」をお答えください。(1つに○)

- ①満足
- ②やや満足
- ③普通
- ④やや不満
- ⑤不満

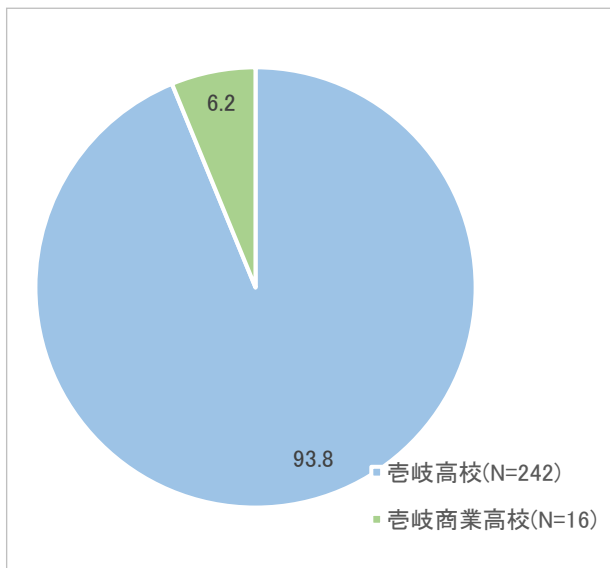
自由意見(路線バスの改善点や、乗りたくなるためのアイデアなどを自由にお書きください)

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

問1. 以下について、当てはまるものに○又は記入してください。

ア) 学校名

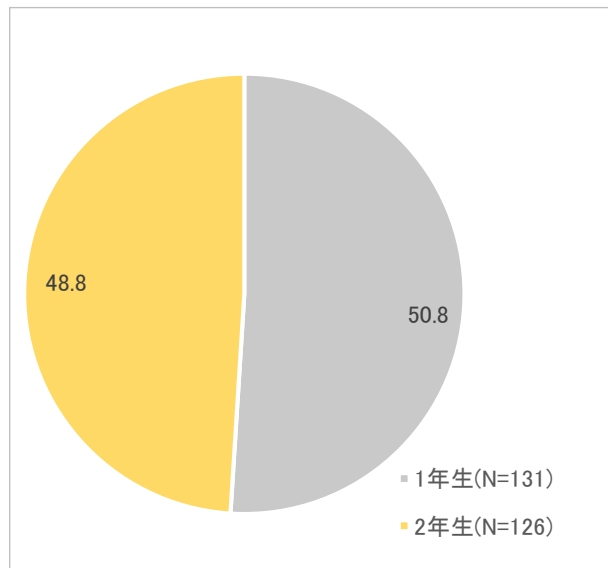
回答者の在学する学校は、「壱岐高校」が93.8%、「壱岐商業高校」が6.2%となった。



イ) 学年

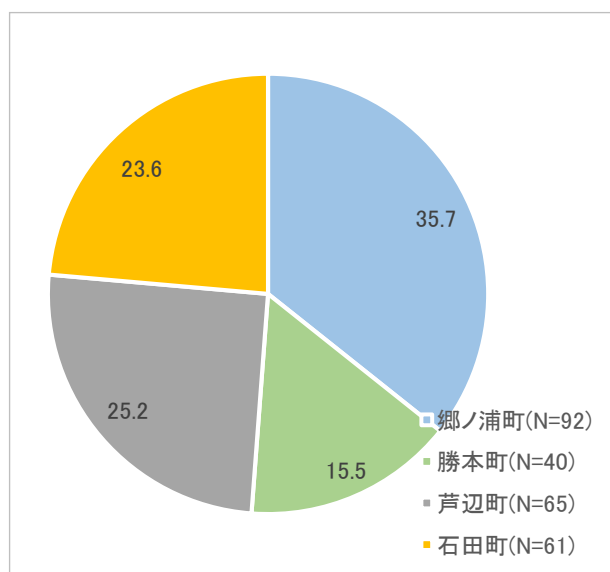
(単位：%、N=258)

回答者の学年は、「1年生」が50.8%、「2年生」が48.8%となった。



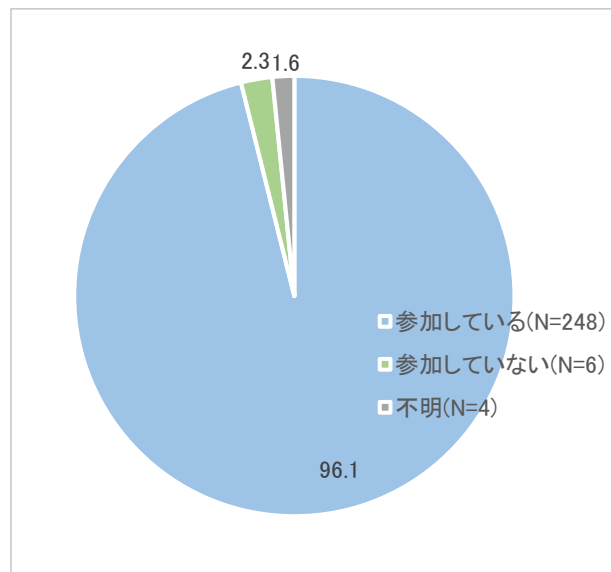
ウ) 住まい

住まいは、「郷ノ浦」が最も多く、次いで「芦辺町」、「石田町」、「勝本町」の順となった。



エ) 部活動の有無

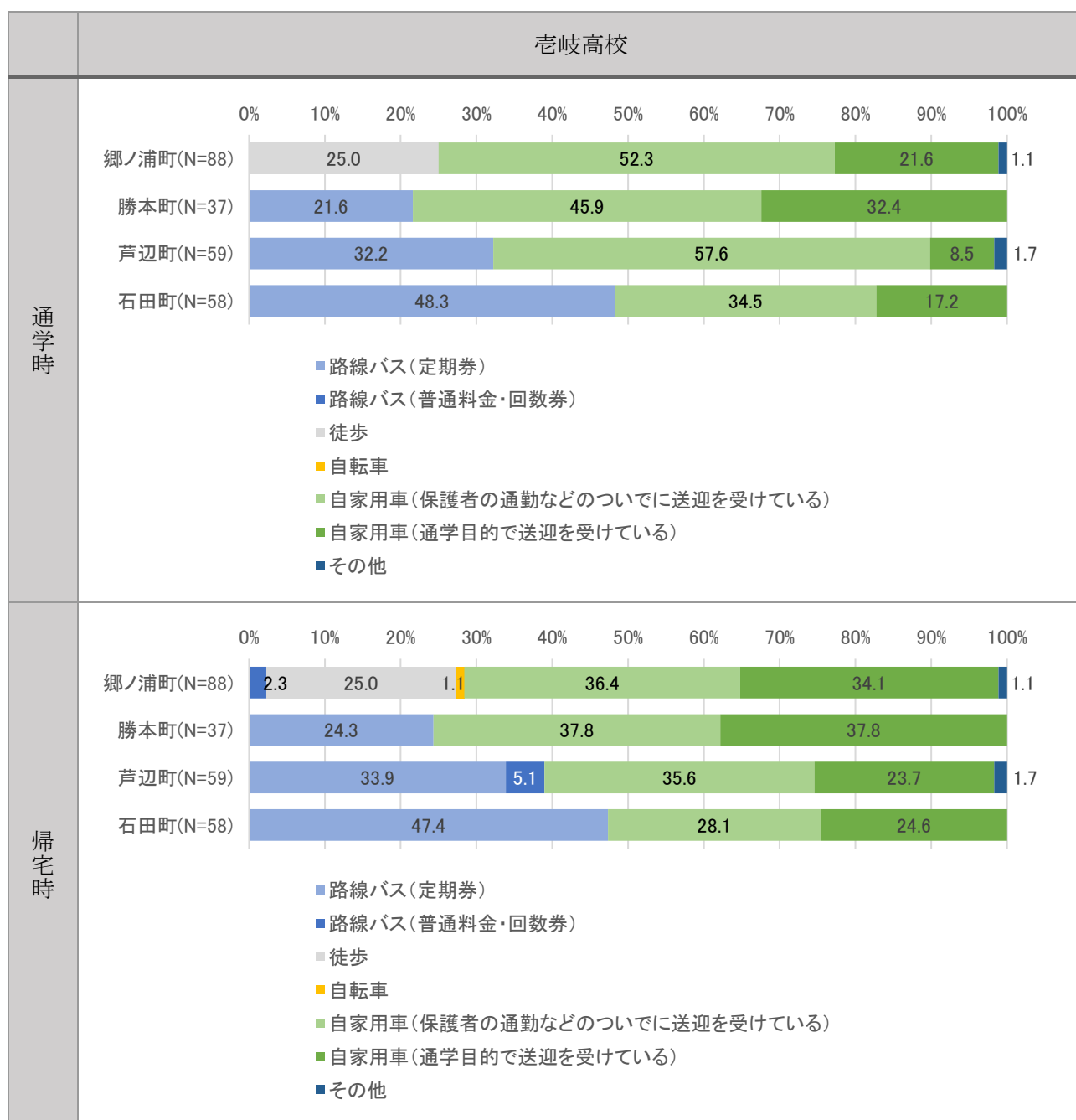
部活動への参加率は高く、全体の96.1%が部活動へ「参加している」と回答している。



エ) 主な移動手段

壱岐高校への通学手段は、住んでいる地域に関わらず「自家用車での送迎」が多く、郷ノ浦町・勝本町・芦辺町ではいずれも約70%を占めている。一方、石田町では「自家用車での送迎」と「路線バス（定期券）」がほぼ同程度の割合となっている。

帰宅手段は通学時と同様に「自家用車での送迎」が多くを占めるが、通学時に比べて「通学目的で送迎を受けている」割合が上昇している。



壱岐商業高校への通学手段は、サンプル数が少ないものの「路線バス（定期）」か「自家用車での送迎」のいずれかに集中している。

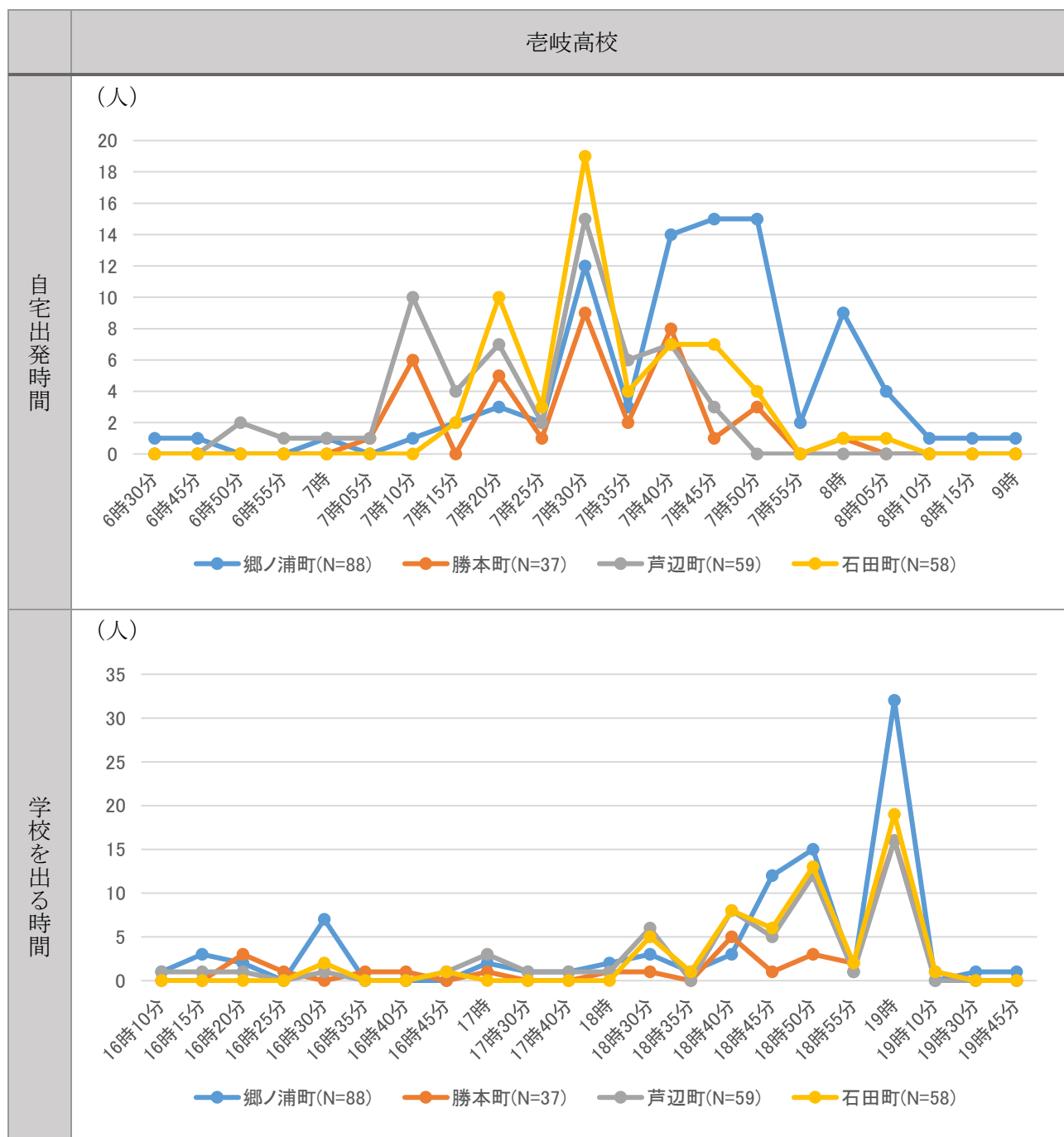
帰宅時においても、通学時と同様に「路線バス（定期）」か「自家用車での送迎」が主な移動手段となっている。



オ) 通学時間帯

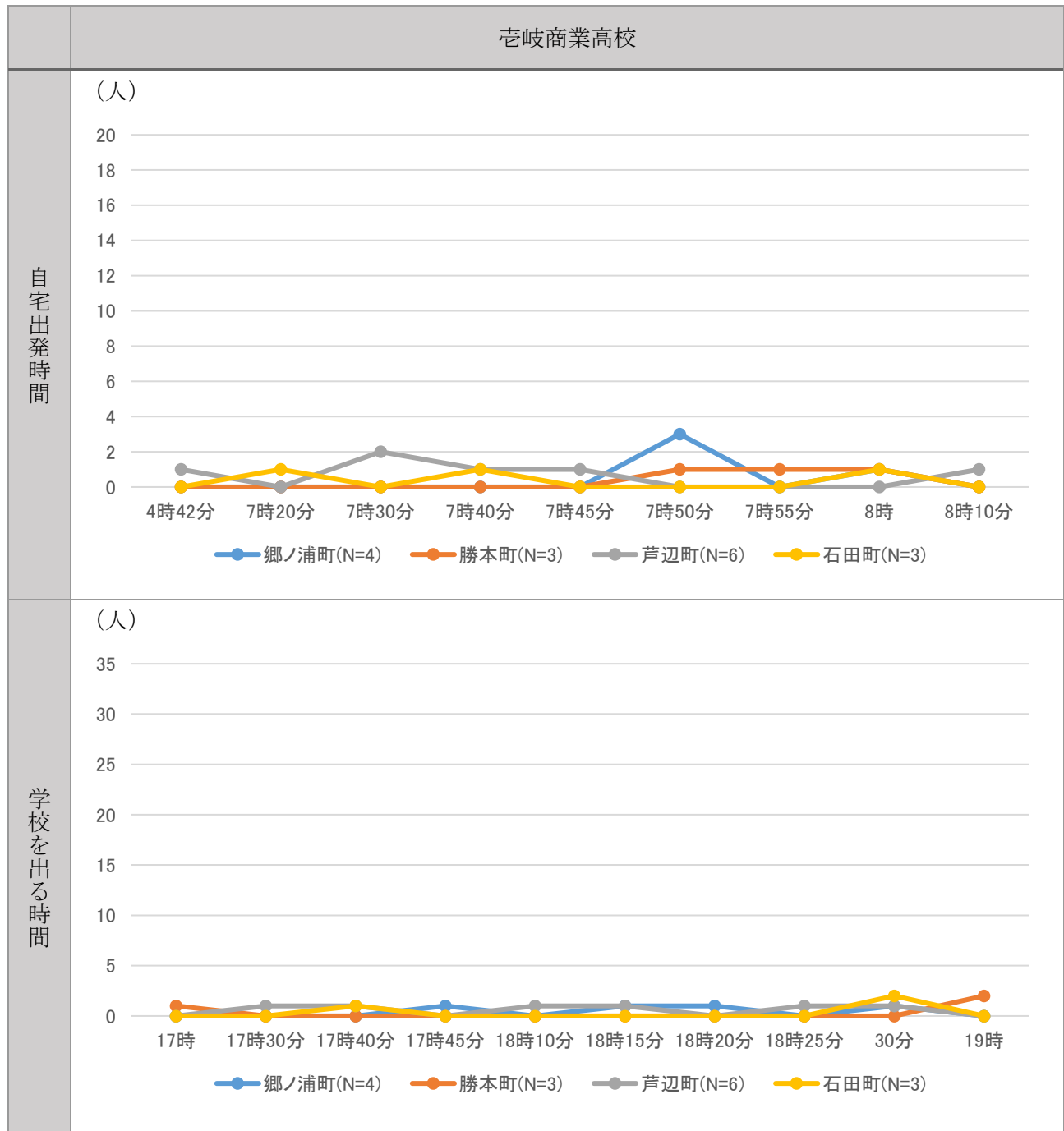
壱岐高校への通学時間帯（自宅出発時間）は、郷ノ浦町では7時30分～8時、勝本町・芦辺町では7時10分～7時40分、石田町では7時20分～7時45分の間に集中している。

帰宅時間帯（学校を出る時間）は、地域に関わらず18時40分～19時頃がピークとなっている。



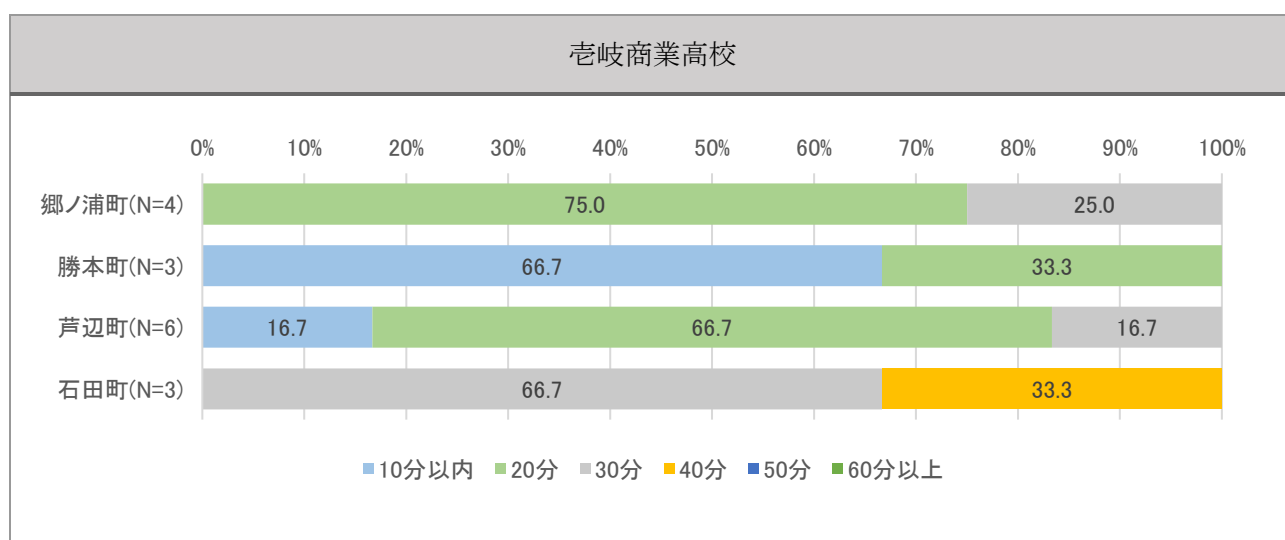
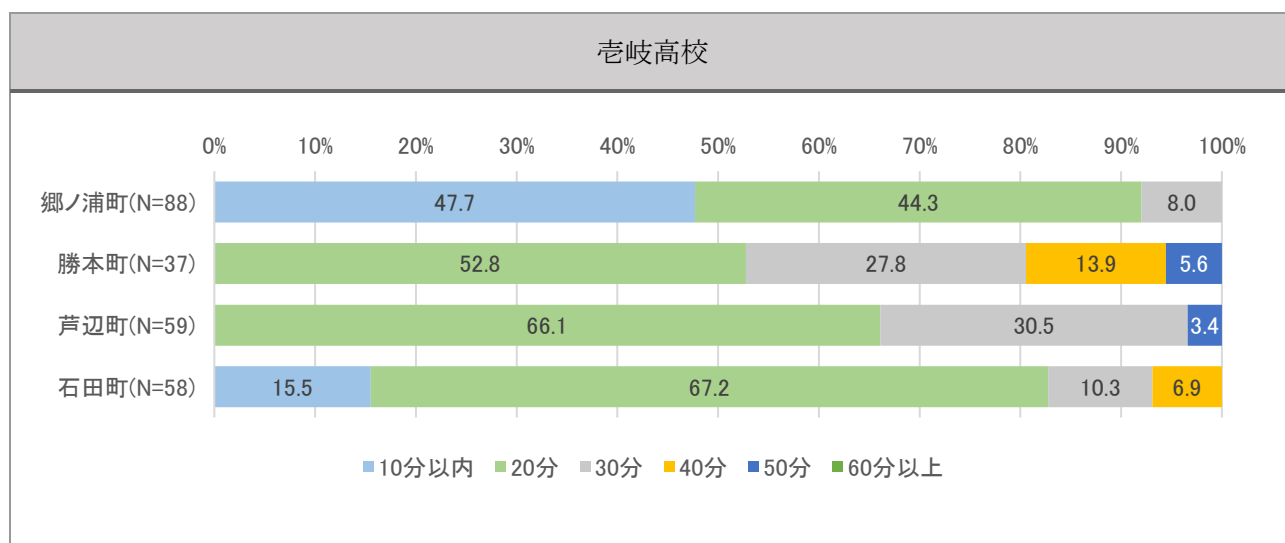
壱岐商業高校への通学時間帯は、サンプル数が少ないものの郷ノ浦町・勝本町では 7 時 50 分～8 時、芦辺町では 7 時 30 分～7 時 45 分の間に集中している。

帰宅時間帯（学校を出る時間）は、17 時 30 分～18 時 30 分に分布している。



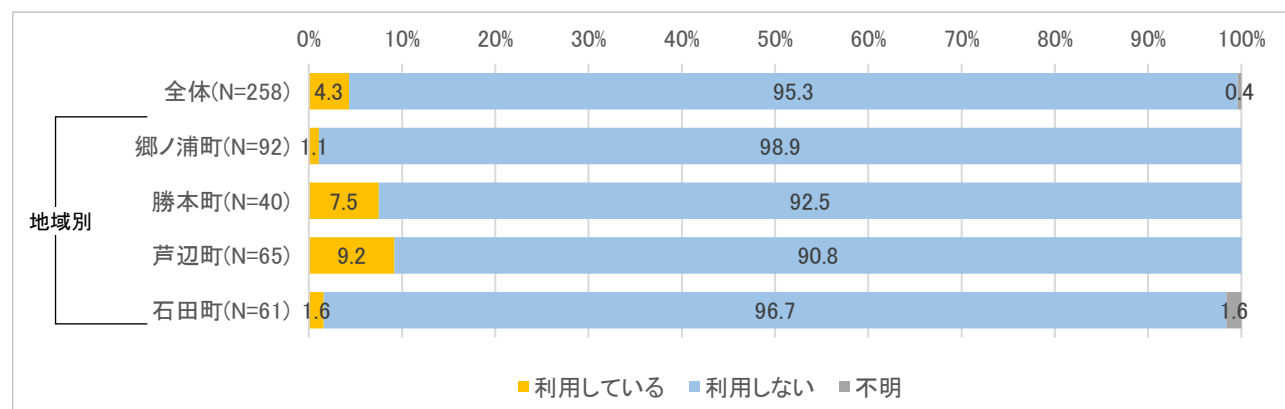
カ) 通学の所要時間

壱岐高校への通学の所要時間は、高校から最も遠い勝本町で30分以上の割合が47.3%。



キ) 通学以外での路線バス利用の有無

通学以外で路線バスを「利用していない」が95.3%を占める。地域別では芦辺町で利用率が僅かに高い。



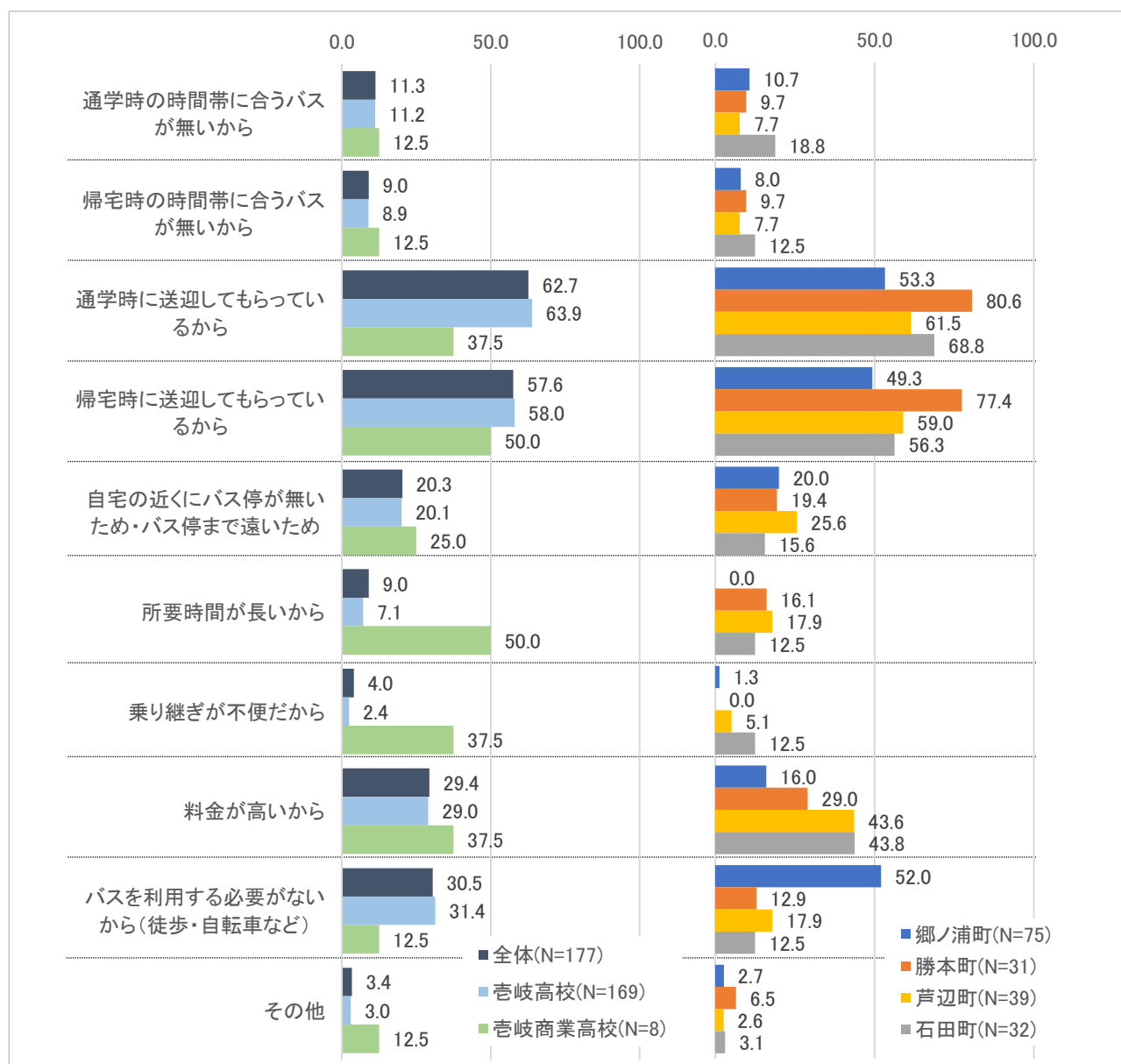
問2. この問題は送迎など路線バス以外の方法で通学している方にお聞きします。路線バスを利用しない理由をお答えください。（該当するもの全てに○）

路線バスを利用しない理由を尋ねたところ、「通学時に送迎してもらっているから」が最も高く、「帰宅時に送迎してもらっているから」が次いで多い。地域別では、通学・帰宅時の送迎があること
の他に、郷ノ浦町で「バスを利用する必要がないから」、芦辺町と石田町で「料金が高いから」も比較
的高い割合となっている。

<全体・学校別>

<地域別>

(%)

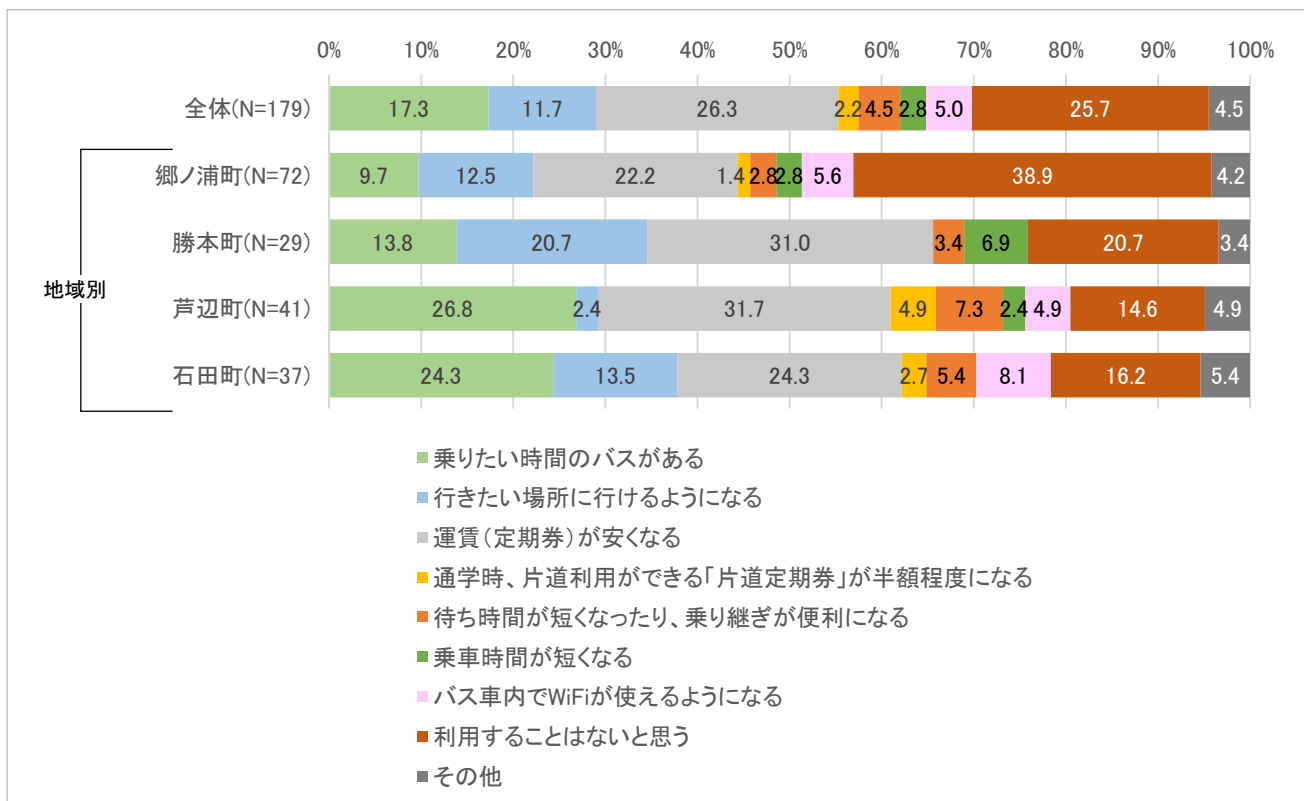


その他（自由記述）

- ・ 乗り遅れると次のバスがなく不便ことがある。
- ・ 行きたい時間に合うバスがなく、早朝や特定の時間帯（例：朝練の日）に間に合わない。
- ・ さまざまな場所を経由するため時間がかかり、できるだけ早く帰宅したい。

問3. どのような取組を行えば、あなたは路線バスを利用しますか、または利用頻度が高くなると思いますか。（1つに○）

利用したくなる・利用頻度が高くなる取組を尋ねたところ、「運賃（定期券）が安くなる」が最も多く、「利用することはないと思う」、「乗りたい時間のバスがある」が続いている。地域別でみると、勝本町で「行きたい場所に行けるようになる」、芦辺町と石田町で「乗りたい時間のバスがある」が全体と比較して高い割合となっている。

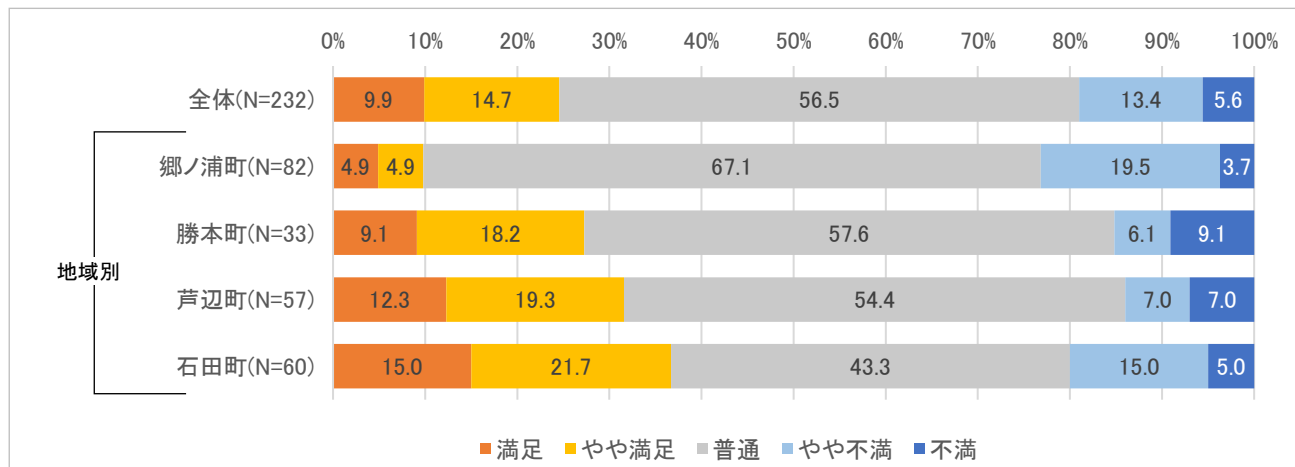


その他（自由記述）

- ・ バス停の新設、近くへ設置してほしい
- ・ 停車時間を長くしてほしい
- ・ 便数を増やしてほしい

問4. 総合的にみて「路線バスの満足度」をお答えください。（1つに○）

路線バスの満足度は「普通」が半数を占め、満足している人が24.6%、不満を感じている人が19.0%となった。地域別にみると、石田町での満足度（36.7%）が最も高くなっている。



自由意見（路線バスの改善点や、乗りたくするためのアイデアなどを自由にお書きください。）

カテゴリ（意見数）	主な意見
運賃・料金 (21)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運賃を安くしてほしい、手軽に乗れる料金にしてほしい ・ 学生は無料・学割、定期券の値下げ ・ 片道定期がほしい
バスの本数・運行頻度 (18)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便を増やす、時間に合うバスを増やす ・ 便の間隔を早める ・ 昼の便が少ない
車両・設備 (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい車両にしてほしい ・ 椅子がボロボロ、車内の匂いが気になる、冷房が効かない ・ 音楽やWiFiの導入 ・ バスの見た目をかわいくしてほしい ・ 入口を増やしてほしい
バス停の利便性 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス停が近くにほしい、家からバス停が遠い ・ 乗車が無いバス停の整理と新設 ・ ICカードが利用できたら良い
定期券・回数券 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の定期券購入が面倒、まとめて購入したい ・ 紛失時の再発行手数料が不便 ・ 片道定期やフリー回数券がほしい
その他 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バスの良さを知らせる ・ 運行表を見やすくしてほしい、路線図を配る ・ 部活動のスクールバスが満席 ・ 満席時に立ち乗りができるバスにしてほしい